

大阪の三大防潮水門更新事業 ～気候変動への対応～

2021年11月19日

大阪府 都市整備部 河川室
室長 山内 一浩

撮影者：小林哲郎氏

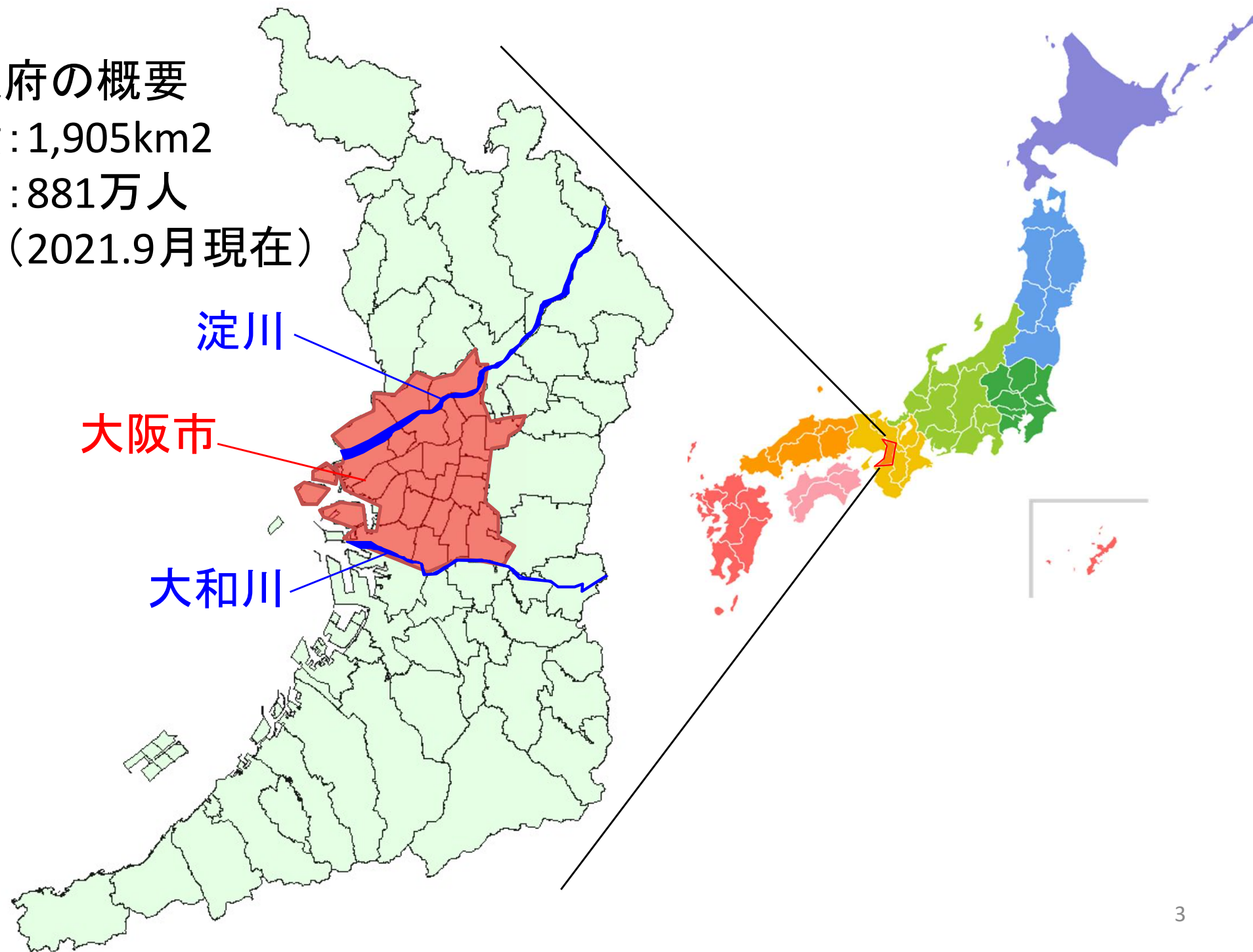
1. 大阪平野の特徴について
2. 過去の高潮被害について
3. 大阪湾高潮防御計画について
4. 南海トラフ巨大地震・津波への対応について
5. 三大水門更新事業について
6. 新水門の景観検討について

大阪府の概要

面積: 1,905km²

人口: 881万人

(2021.9月現在)

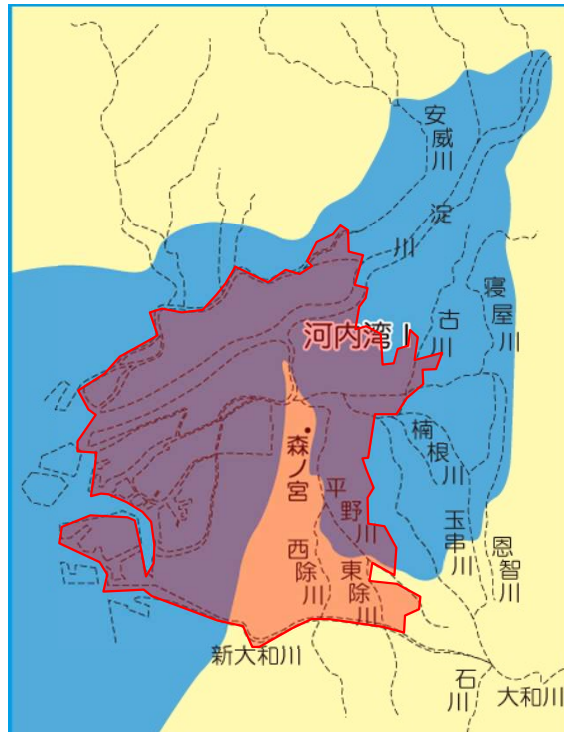


1. 大阪平野の特徴について 大阪の都心部の様子

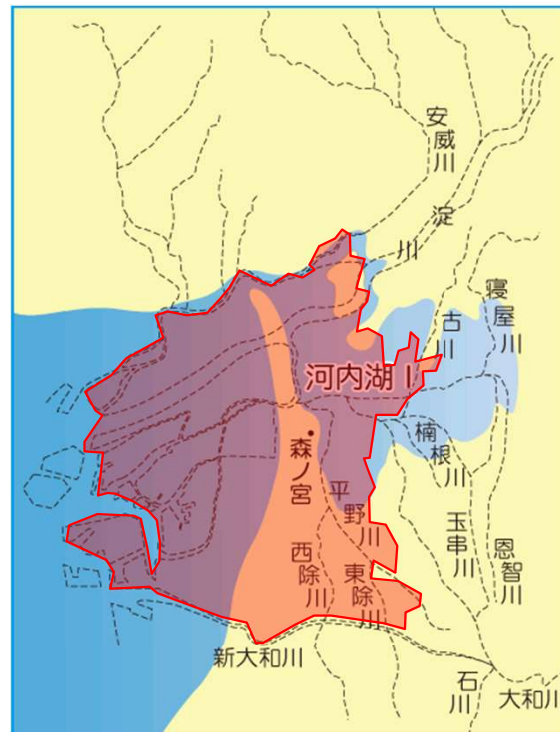


大阪市北区中之島

古代の大阪平野～河内湾から河内湖・河内平野へ～



河内湾の時代
(約7,000～6,000年前)



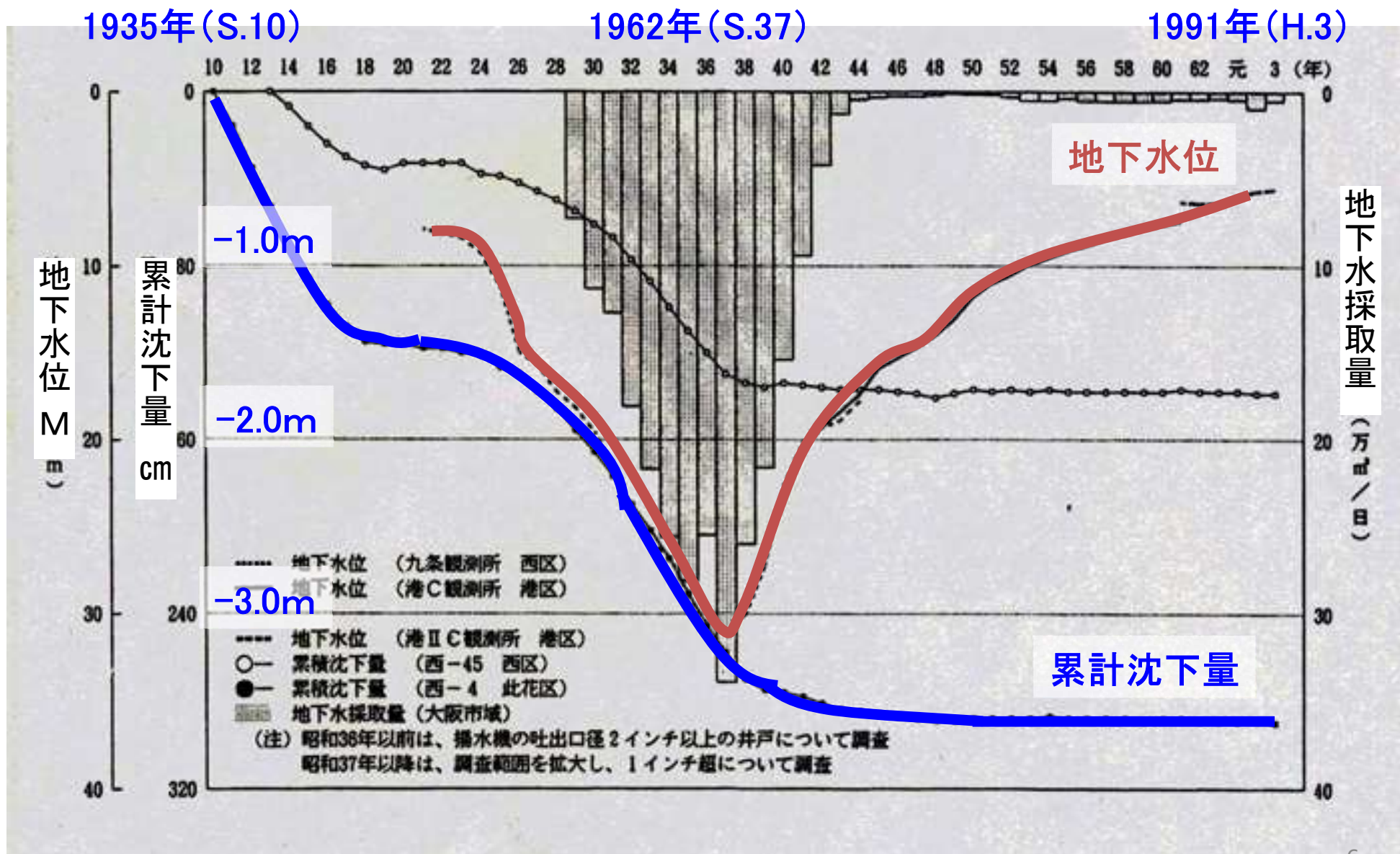
河内湖の時代
(約1,800～1,600年前)



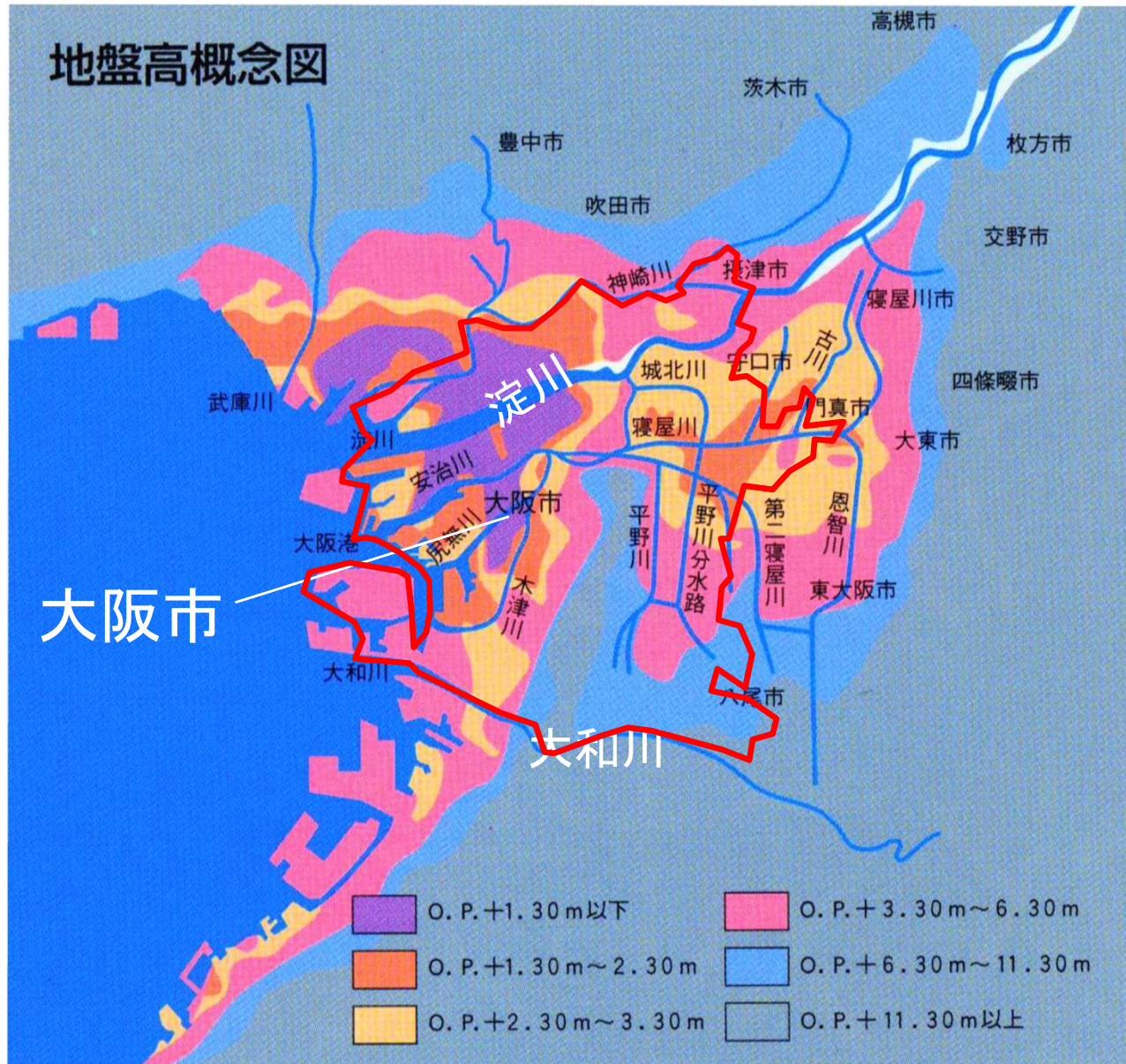
大阪平野生まれる
(5世紀以降)

縄文時代前期には、大阪平野は内海の一部であり、その後、淀川や大和川のたびかさなる氾濫により、土砂が堆積され、低地が形成された。そのため大阪平野は、多くの河川を有しており、水資源に恵まれている反面、地盤高が低く、水害を受けやすい地形となった。

○ 地下水採取量と地下水位、累積沈下量の相関関係



O.P.+1.30m : 海拔ゼロメートル以下 約21km²
 O.P.+2.20m : 朔望平均満潮位以下 約41km²





日々の満潮

堤内地盤高

2. 過去の高潮被害について 高潮災害をもたらした三大台風



- : 1934年室戸台風
- : 1950年ジェーン台風
- : 1961年第2室戸台風

第2室戸台風

ジェーン台風

室戸台風

災害事象	気圧	最大風速 (大阪)	最高潮位	潮位 偏差	床上浸水 (戸)	床下浸水 (戸)	死傷者 (人)
1934年 室戸台風	954hPa	48.4m/s	OP+4.20m	2.92m	166,720		17,898
1950年 ジェーン台風	970hPa	28.1m/s	OP+3.85m	2.37m	45,406	35,058	21,465
1961年 第2室戸台風	937hPa	33.3m/s	OP+4.12m	2.45m	59,198	67,782	2,165

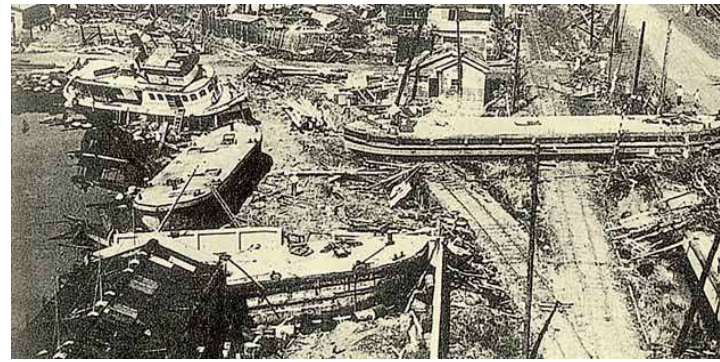
2. 過去の高潮被害について 高潮災害をもたらした三大台風

●1934年 室戸台風



被災者の救出状況

●1950年 ジェーン台風



大阪市港区の被害状況



大阪市福島区の浸水

●1961年 第2室戸台風



大阪市 中之島(堂島川渡辺橋付近)の浸水



大阪市西淀川区の浸水

三大台風による浸水範囲

室戸台風(1934年)

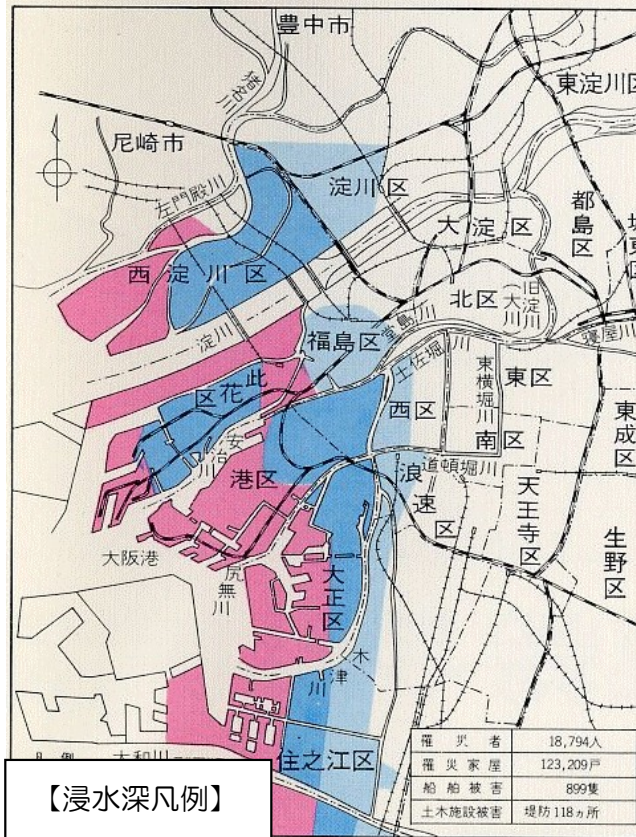
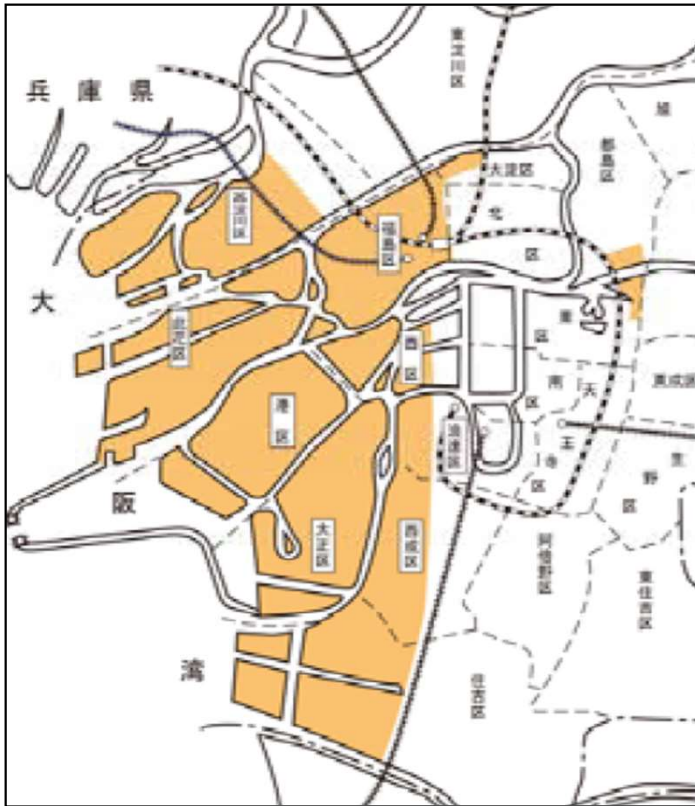
【4,291ha】

ジェーン台風(1950年)

【5,625ha】

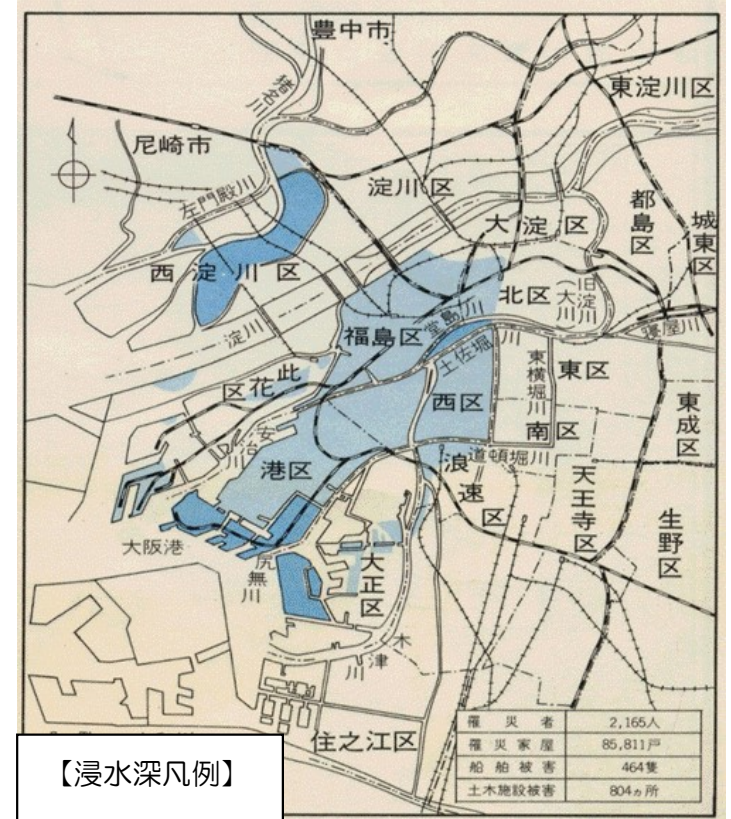
第2室戸台風(1961年)

【3,100ha】



【浸水深凡例】

- : 2~3m
- : 1~2m
- : 0~1m



【浸水深凡例】

- : 2~3m
- : 1~2m
- : 0~1m

○台風の規模

伊勢湾台風(1959年)と同規模の超大型台風

○台風の経路

満潮時に大阪湾に最悪コース(室戸台風)を通過

○計画高潮位 OP+5.20m

台風期の平均満潮位 (OP+2.2m) + 潮位偏差 (3.0m)

○降雨規模

3大台風の最大降雨であるジェーン台風時の降雨

⇒ 1時間雨量 19.8mm

※1965年策定

○ 大阪府における高潮対策方式の分類

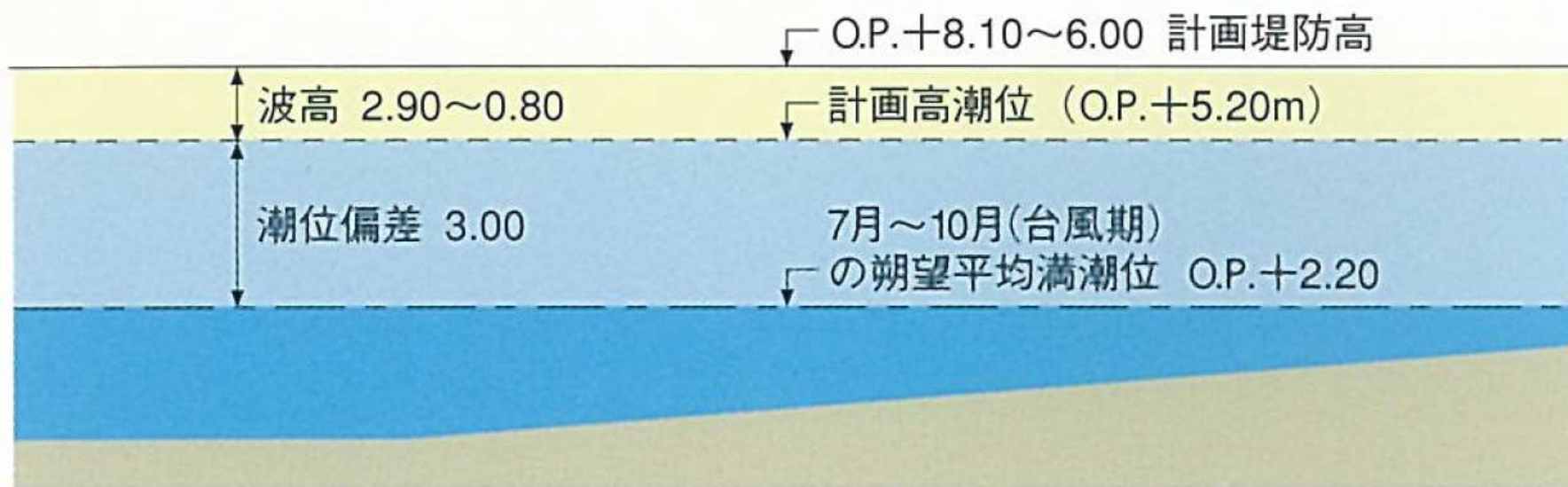
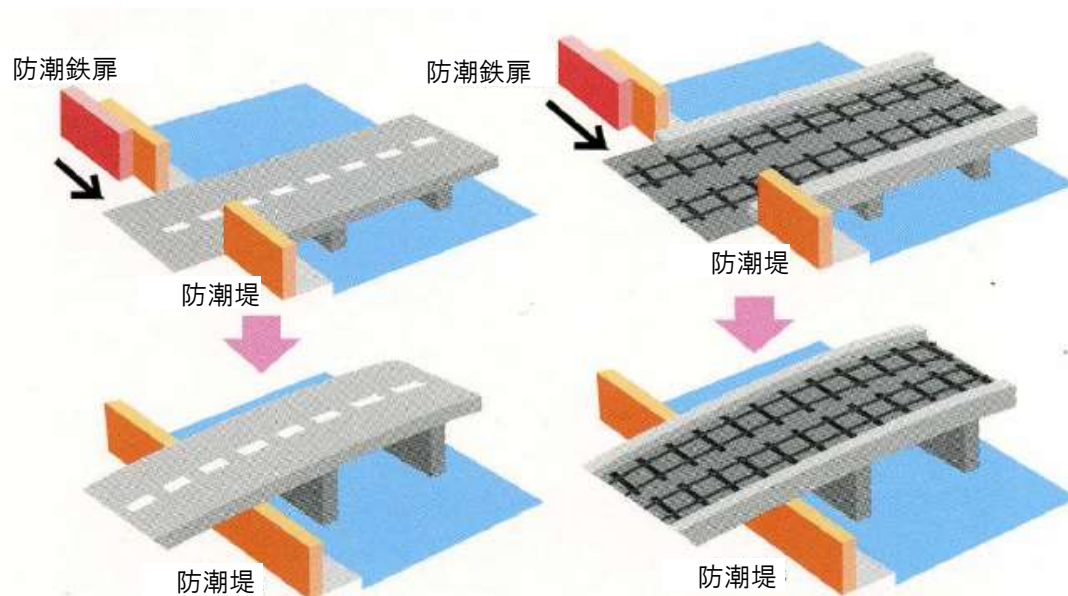
① 防潮堤方式

- 堤防により高潮の浸水を防ぐ高潮対策の基本
- 維持管理において有効な方式

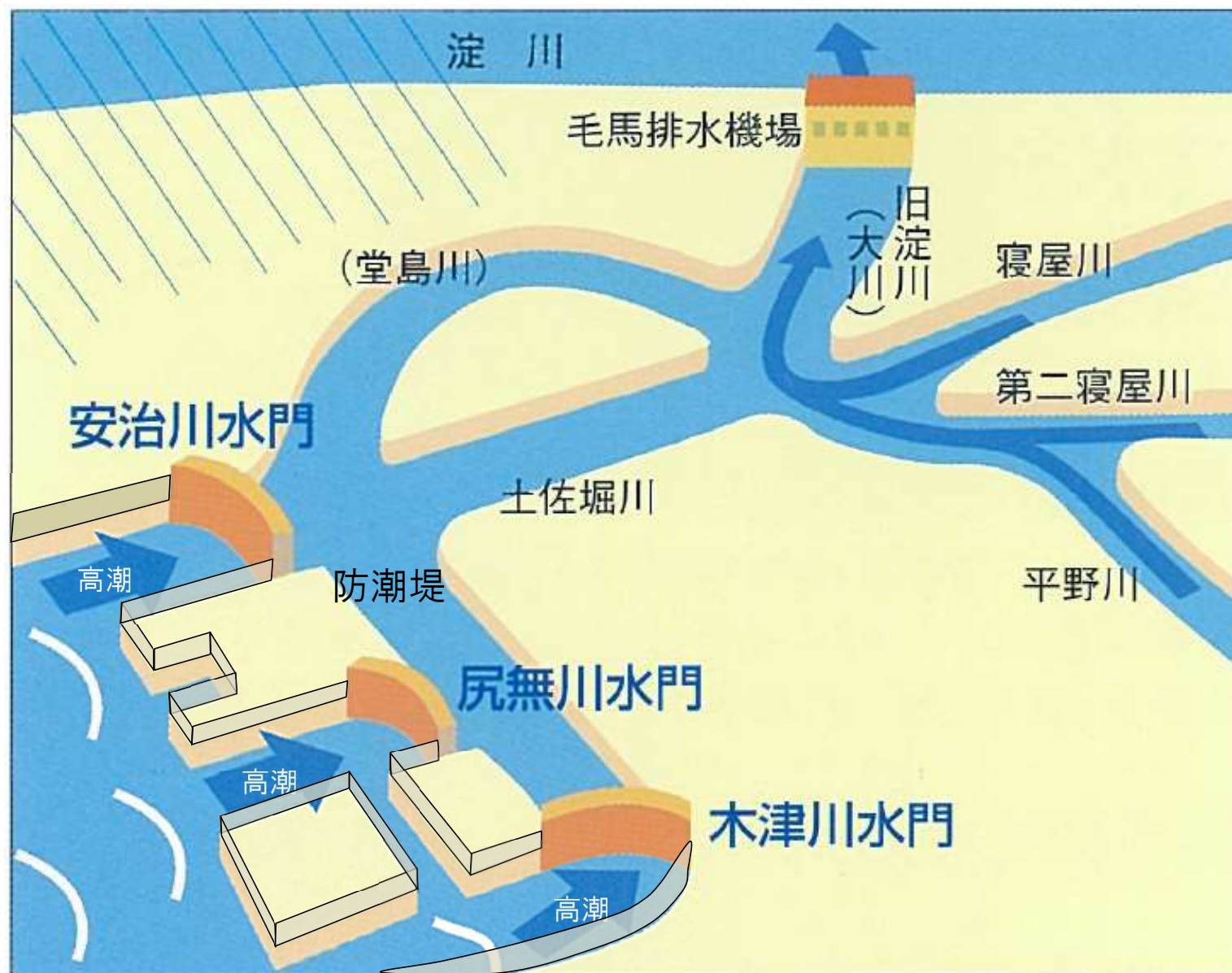
② 防潮水門式

- 都心部にある沈下した多くの橋梁のかさ上げが不要
- 新たな鉄扉の設置が不要
- 水防上の確実な措置が可能

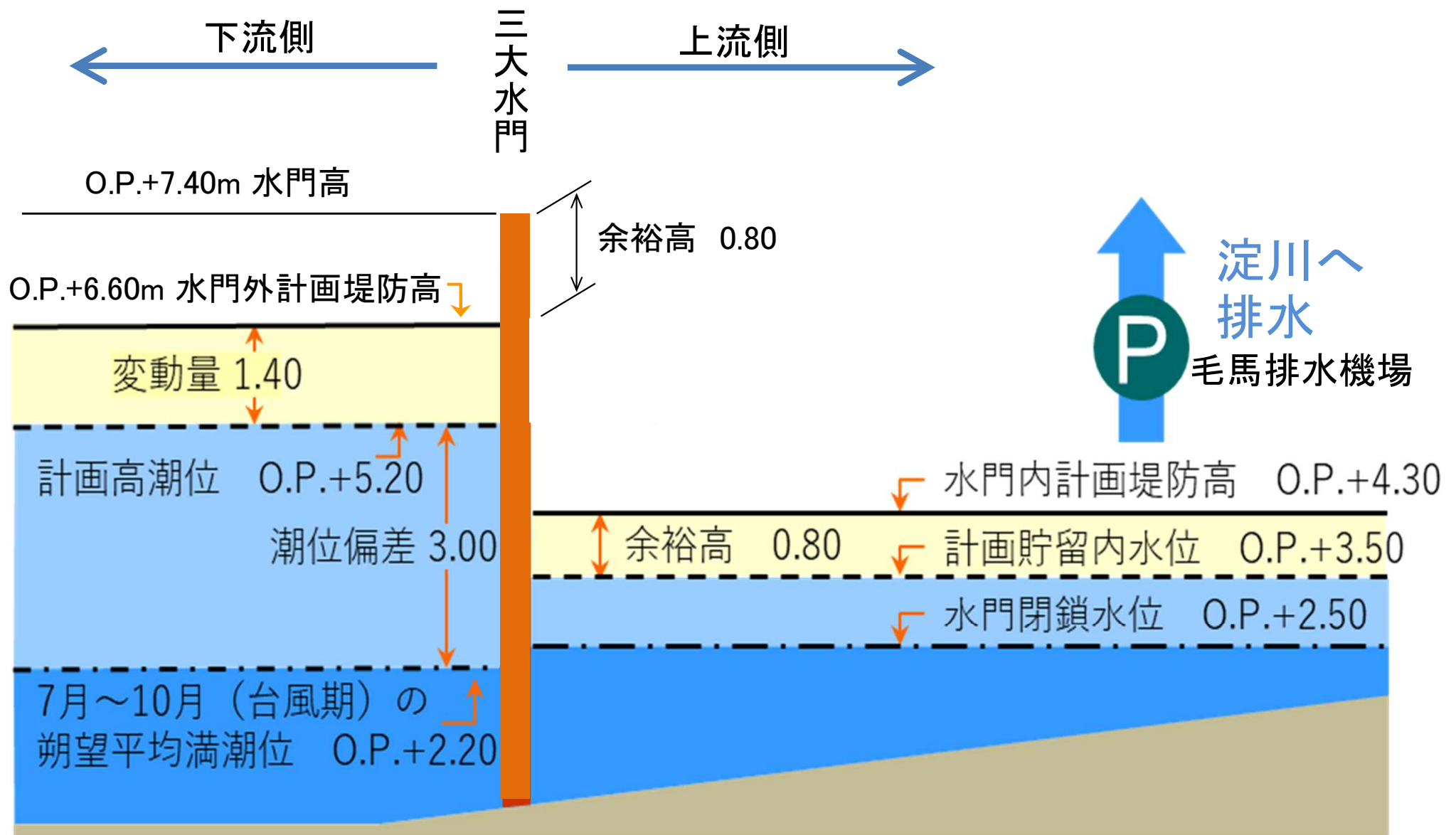
① 防潮堤方式



② 防潮水門方式



- ・三大水門(安治川水門、尻無川水門、木津川水門) 1970年完成
- ・毛馬排水機場 1981年完成



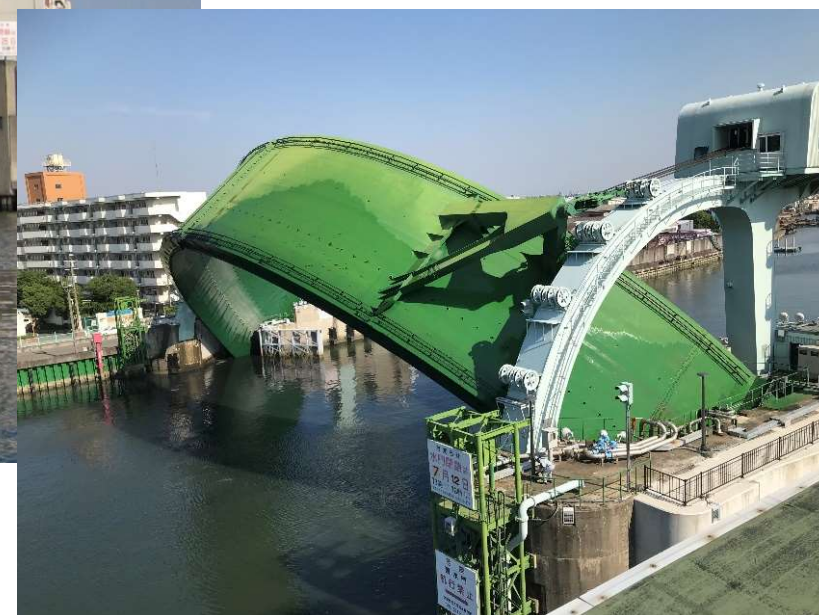
※変動量：打上げ波高+堰上高
 余裕高：地盤沈下量+吹き寄せ

木津川水門



平常時(水門開)

諸元	
形式	アーチ型ゲート
径間	主水門:57.0m×1 副水門:15.0×1
有効幅員	55.4m
扉体	幅66.7m 高11.9m
閉鎖時 天端高	OP+7.4m



水門閉鎖中

毛馬排水機場



諸 元		
主ポンプ	口径	φ 4000 × 6台
	台数	6台
	吐出量	330m ³ /s (55m ³ /s × 6台) 実揚程2.2m



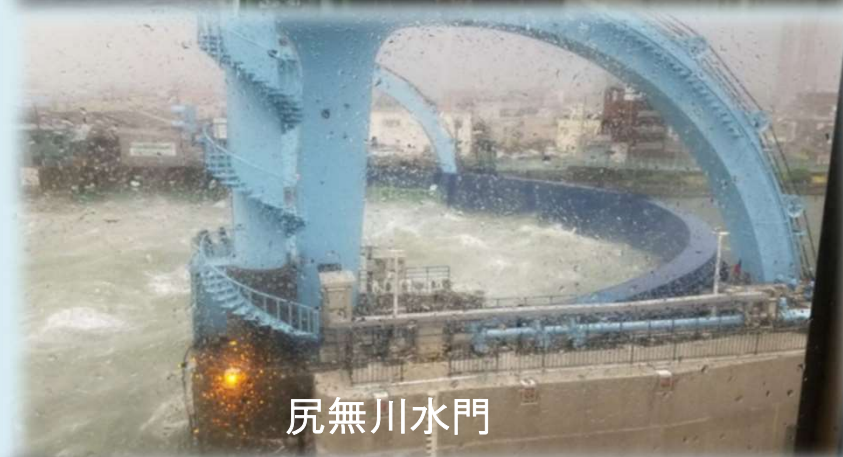
3. 大阪湾高潮防御計画について 三大水門閉鎖実績

	運転年月日	事由	最高潮位 O.P.+(m)
1	1975/8/22	台風6号	3.28
2	1979/9/30	台風16号	3.42
3	1994/9/29	台風26号	2.41
4	1997/7/26	台風9号	2.70
5	2003/8/9	台風10号	2.86
6	2004/8/30	台風16号	3.23
7	2004/9/7	台風18号	3.08
8	2017/9/17	台風18号	2.66
9	2018/8/23	台風20号	3.30
10	2018/9/4	台風21号	5.16
11	2018/9/30	台風24号	2.52

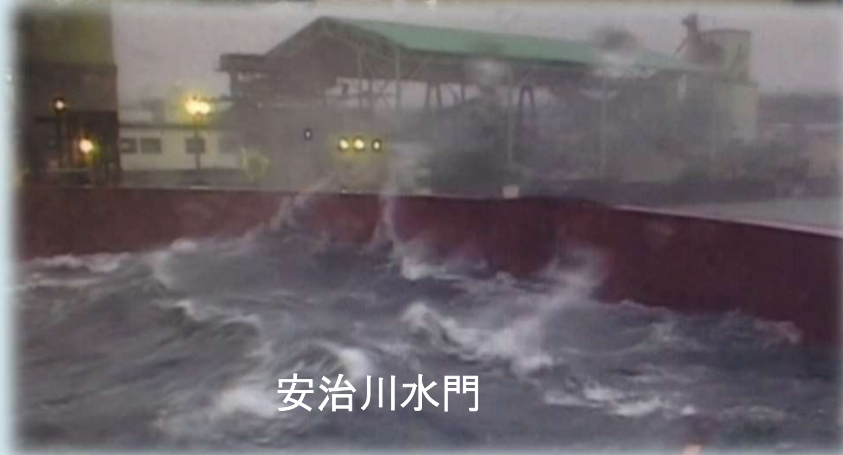
三大水門 閉鎖状況



木津川水門



尻無川水門



安治川水門

		O.P.+(m)
水門外 計画堤防高		6.60
水門内 計画堤防高		4.30

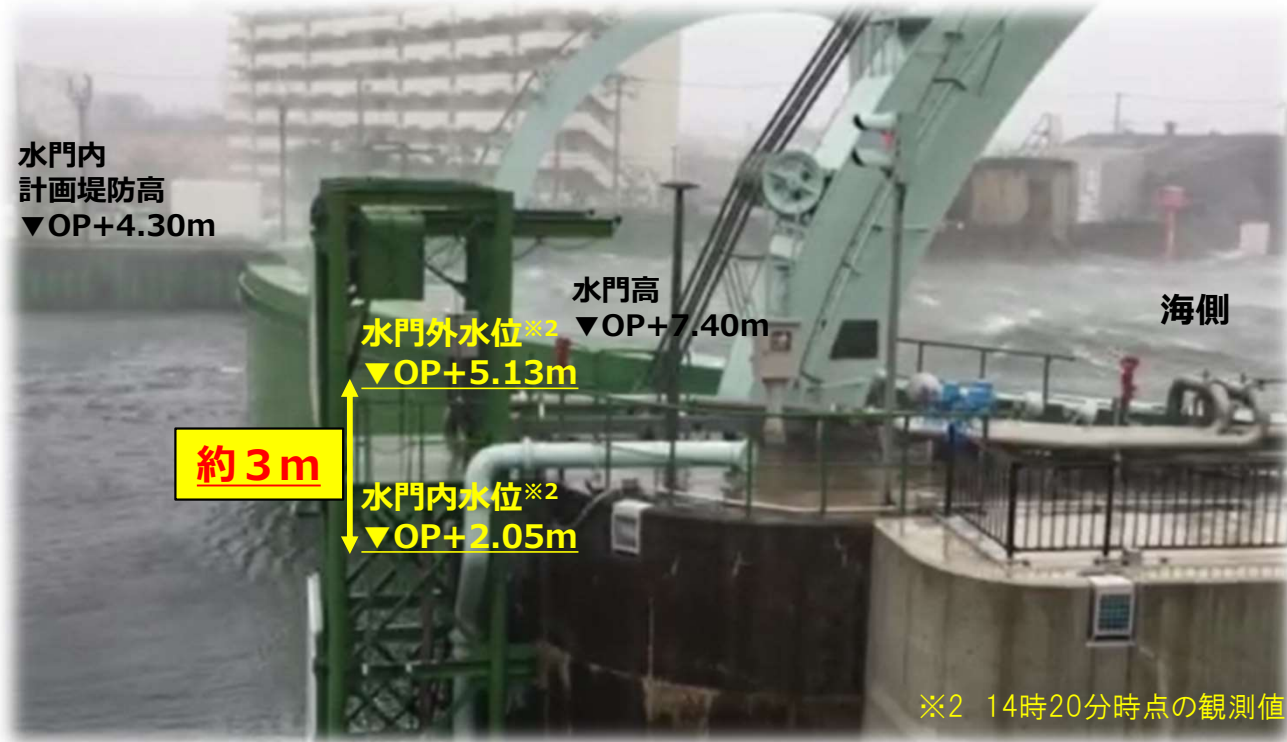
3. 大阪湾高潮防御計画について 三大台風と台風21号(2018年)の比較

- : 1934年室戸台風
- : 1950年ジェーン台風
- : 1961年第2室戸台風
- : 2018年台風21号

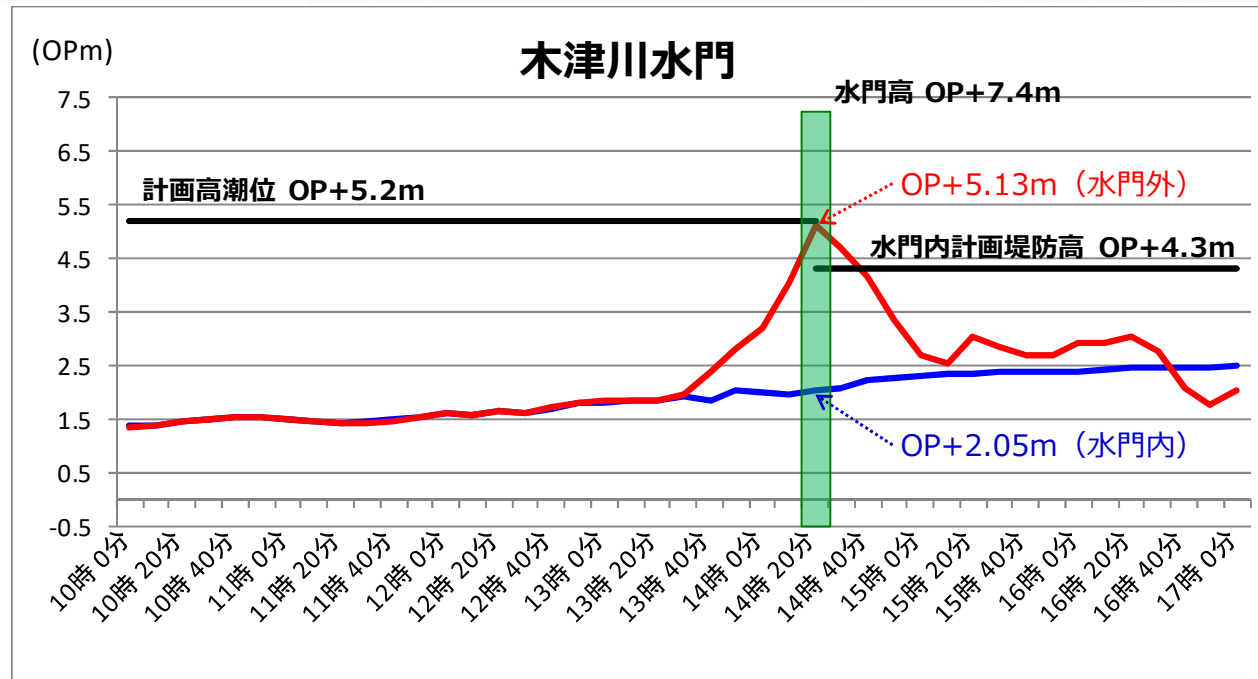


	室戸台風	ジェーン台風	第2室戸台風	2018年台風21号
年月日	1934年9月21日	1950年9月3日	1961年9月16日	2018年9月4日
気圧	954.3hPa	970.0hPa	937.0hPa	962.4hPa
最大風速	48.4m/s(大阪)	28.1m/s(大阪)	33.3m/s(大阪)	27.3m/s(大阪)
最高潮位 (大阪港)	O.P.+4.20m	O.P.+3.85m	O.P.+4.12m	O.P.+4.59m
潮位偏差	2.92m	2.37m	2.45m	2.77m

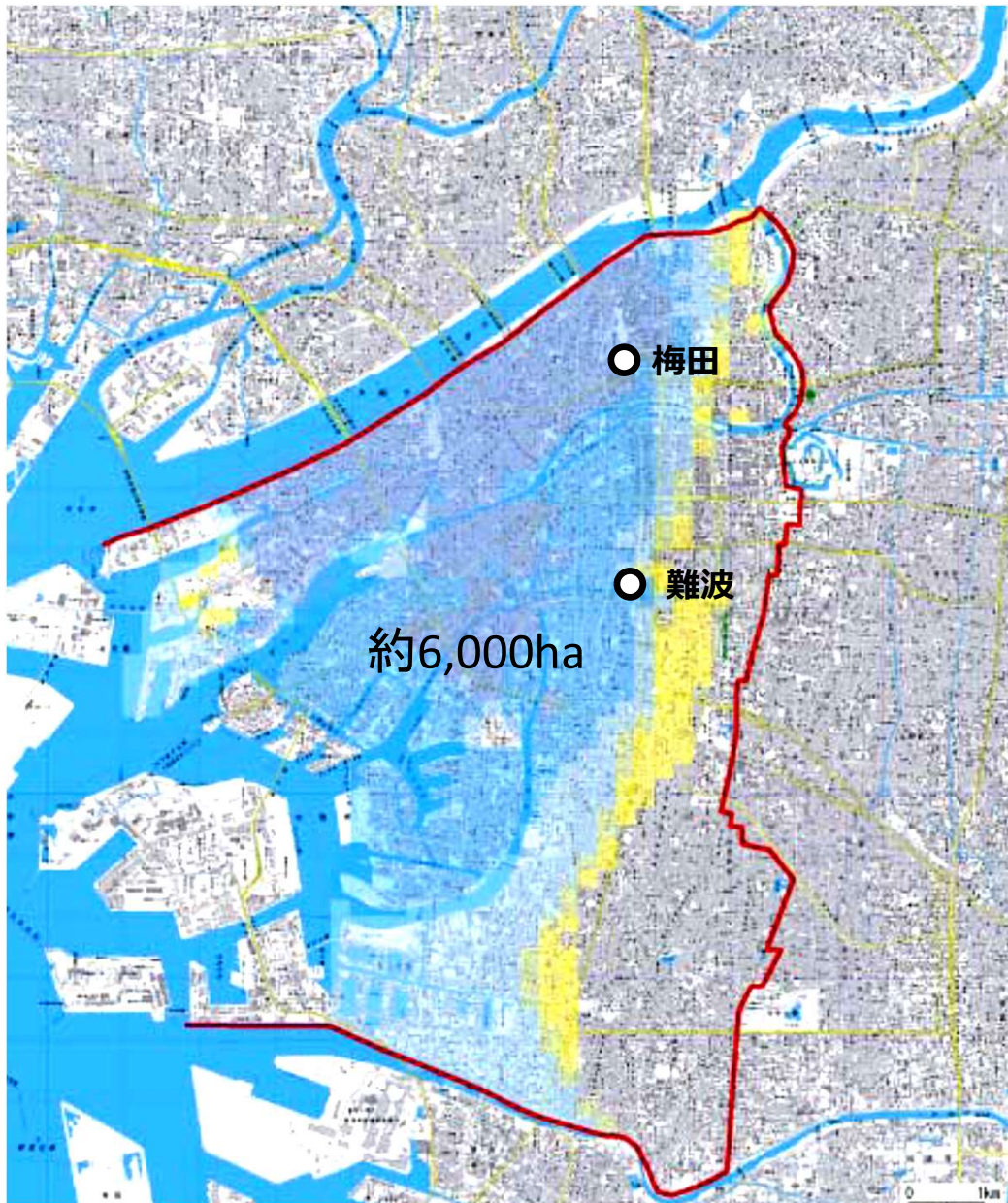
木津川水門の閉鎖状況



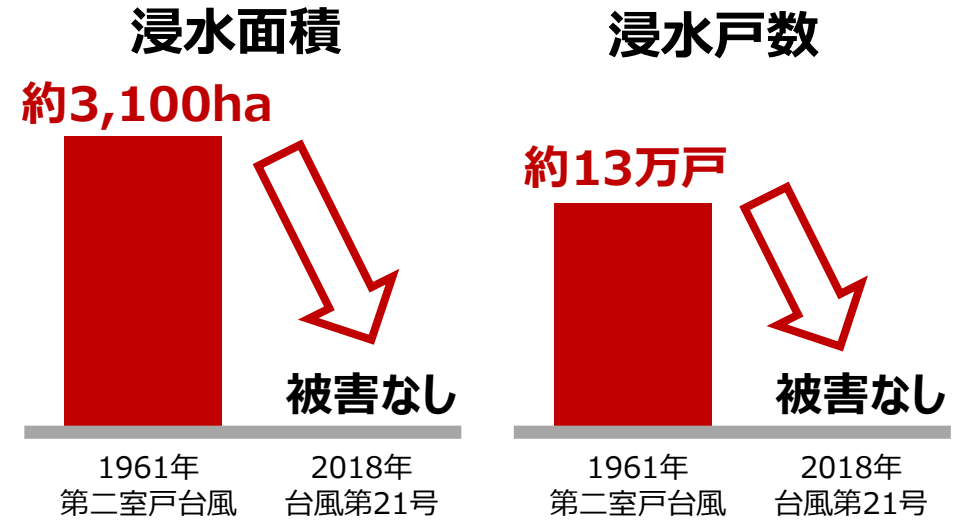
木津川水門内外水位



● 浸水想定エリア 高潮潮位O.P.+4.45m (生起確率 1/150) (台風21号と同規模)



 : 0~0.5m未満
 : ~1.0m未満
 : ~2.0m未満
 : ~3.0m未満
 : 3.0m以上



施設の整備効果



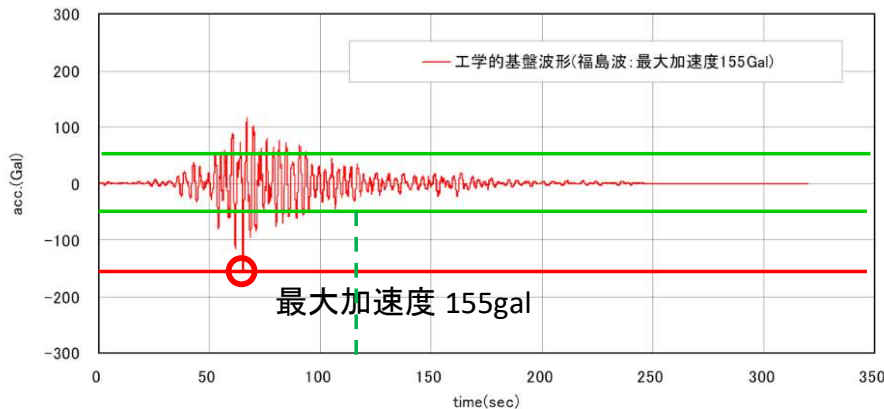
高潮対策が未整備の場合の想定被害額

海岸・河川堤防当の整備費と維持管理費²²

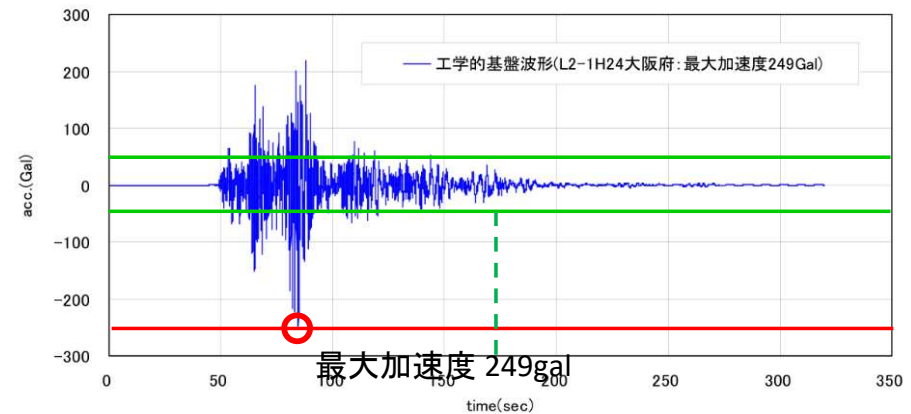
○東日本大震災を契機とした防潮施設の地震・津波対策の見直し

地震動

従来【M8クラス:東南海・南海地震】



見直し後【M9クラス】H23南海トラフ巨大地震(内閣府)



津波高

【M8クラス:東南海・南海地震】

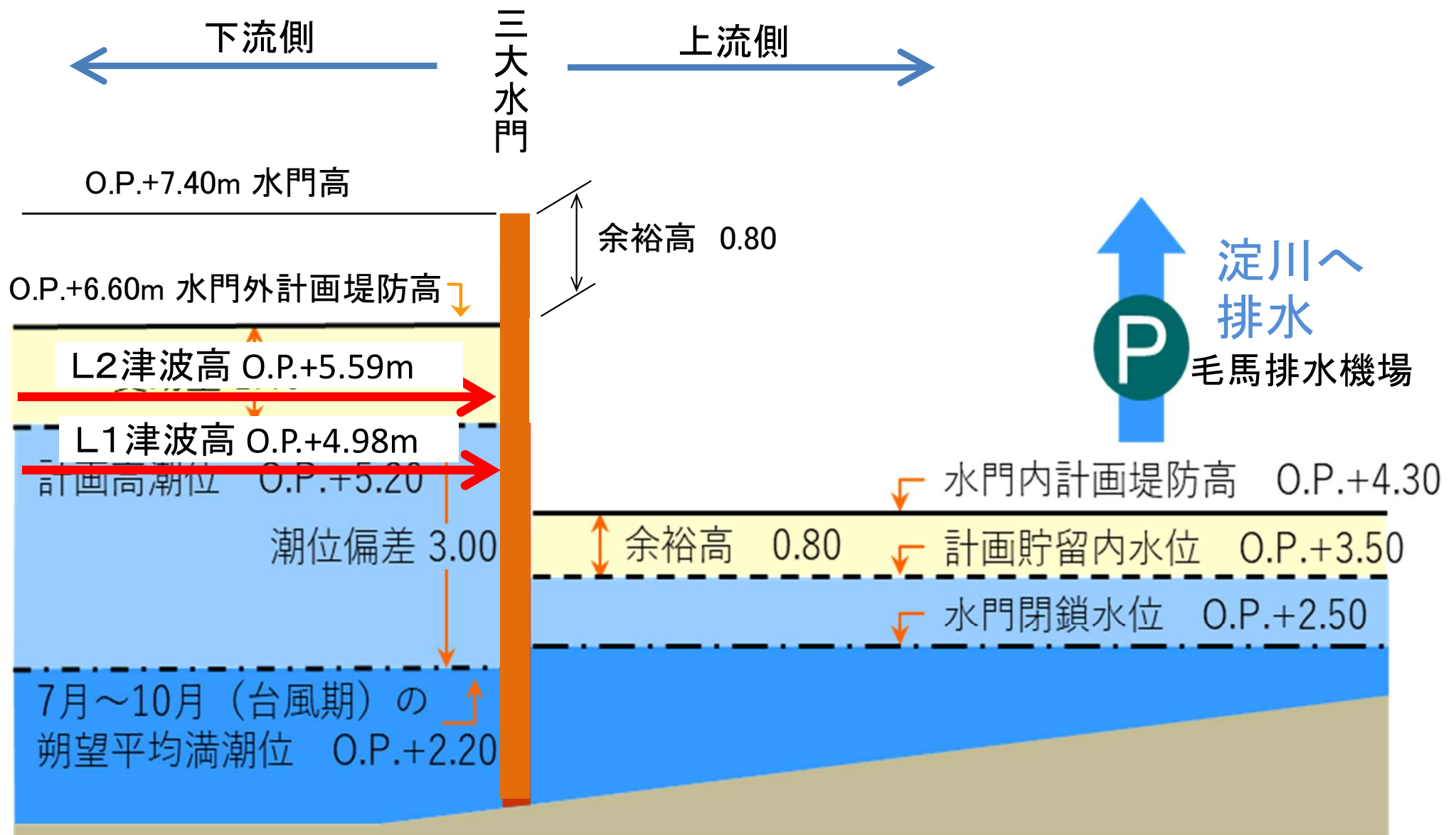
水門地点	最大津波高 (O.P.+)
安治川水門	4.29m
尻無川水門	4.56m
木津川水門	4.98m

【M9クラス】H23南海トラフ巨大地震 (内閣府)

水門地点	最大津波高 (O.P.+)
安治川水門	5.31m
尻無川水門	5.43m
木津川水門	5.59m

➡ L1津波(施設計画上の津波)

➡ L2津波(最大クラス相当の津波)



※変動量：打上げ波高＋堰上高
 余裕高：地盤沈下量＋吹き寄せ

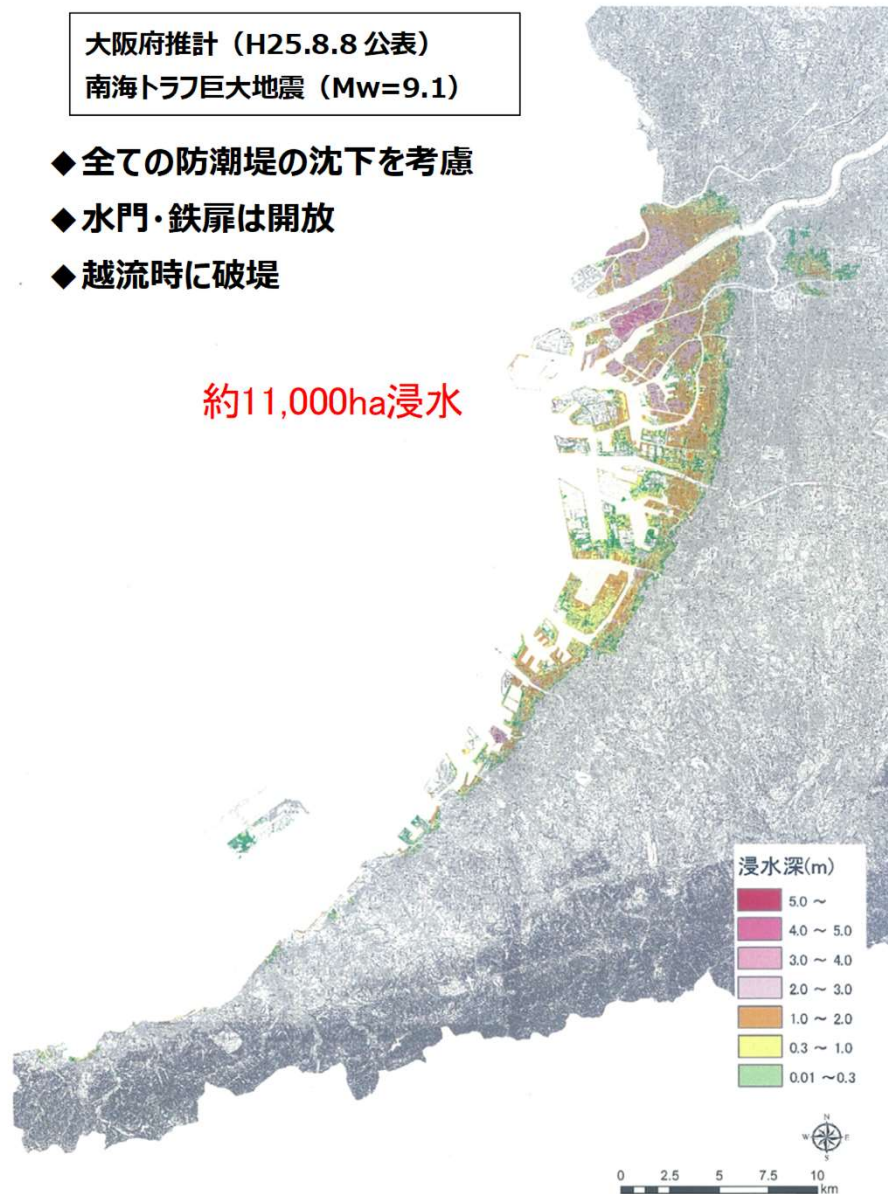
○東日本大震災を契機とした防潮施設の地震・津波対策の見直し

対策未実施の場合

大阪府推計 (H25.8.8 公表)
南海トラフ巨大地震 (Mw=9.1)

- ◆ 全ての防潮堤の沈下を考慮
- ◆ 水門・鉄扉は開放
- ◆ 越流時に破堤

約11,000ha浸水



被害想定

- ・約11,000haが浸水
- ・津波による死者数132,967人
- ・津波による建物被害 全壊31,135棟



第一線防潮ラインによる津波防御

1. 防潮堤

- ・南海トラフ巨大地震の地震動を用い耐震性能照査を実施
⇒府管理河川において、約27kmの防潮堤液状化対策を実施【R5年度完了予定】

2. 三大水門の津波時活用

- ・減災を目的に高潮用水門の津波時閉鎖を決定

○三大水門の地震・津波照査

照査の考え方

◆以下の性能を満足するかを点検

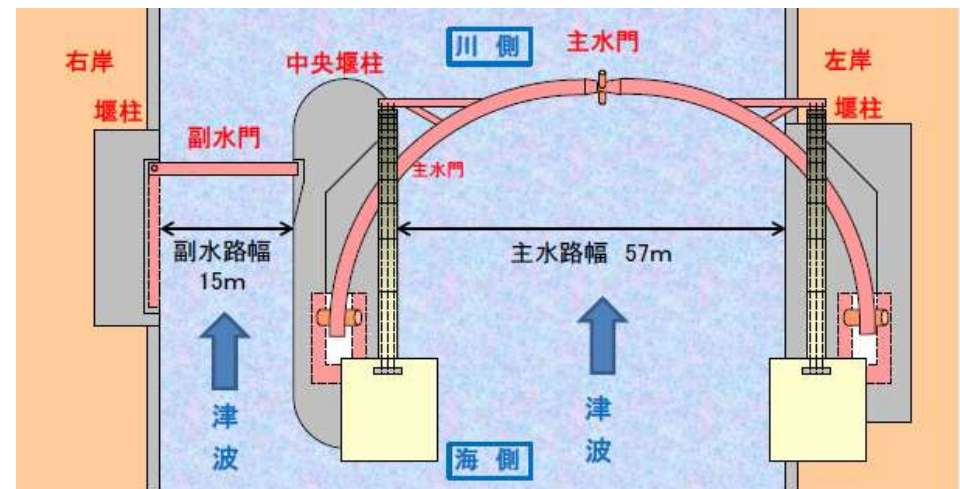
1. 「揺れ」「液状化」に対する点検は、機能（損傷が生じたとしても開閉動作は可能）が確保
2. 「津波」に対する点検は、L 1 津波では機能（損傷が生じたとしても開閉動作は可能）が確保、
L 2 津波では、二次被害（流出）を発生させない

照査結果

1. 「揺れ」「液状化」に対する点検
尻無川水門の補強が必要
2. 「津波」に対する点検
 - ・ L 1 津波で水門は損傷し、開閉が困難となる可能性大
 - ・ L 2 津波に対し、二次被害(流出)は発生しない

対応方針

1. 「揺れ」の対策は最優先で実施
2. 三大水門を津波用水門にする補強は困難
当面の対応として、地震後の洪水等のリスクに対し、副水門の補強を実施



抜本的な津波対策の検討が必要




○三大水門の津波への対応

- ・津波波力に対する補強は不可能
- ・津波用水門として必要な機能(自重降下等)の補完が不可能

○三大水門の老朽化への対応

- ・建設後51年が経過し、老朽化が進行
- ・常時の津波対応のため、大規模な補修や設備更新が不可能

⇒抜本的な対策として、現水門が施設寿命を迎える前に、津波・高潮対策用の新水門を新たに建設する。新たな水門は、その供用期間中に気候変動による外力増大の影響を受けることが確実。

整備期間	令和元年～令和10年	令和11年～令和20年	令和21年～令和30年
整備箇所			
木津川水門改築		 現木津川水門寿命 (令和13年)	
安治川水門改築		 現安治川水門寿命 (令和16年)	
尻無川水門改築			 現尻無川水門寿命 (令和23年)

■三大水門(1970年完成)



■扉体の腐食状況



IPCC第5次報告書で採用されたRCPシナリオのうち、国土交通省による「気候変動を踏まえた治水計画のあり方提言」に基づき、RCP2.6(2°C上昇相当)、RCP8.5(4°C上昇相当)シナリオを基本として気候変動を踏まえた設計外力を検討する。

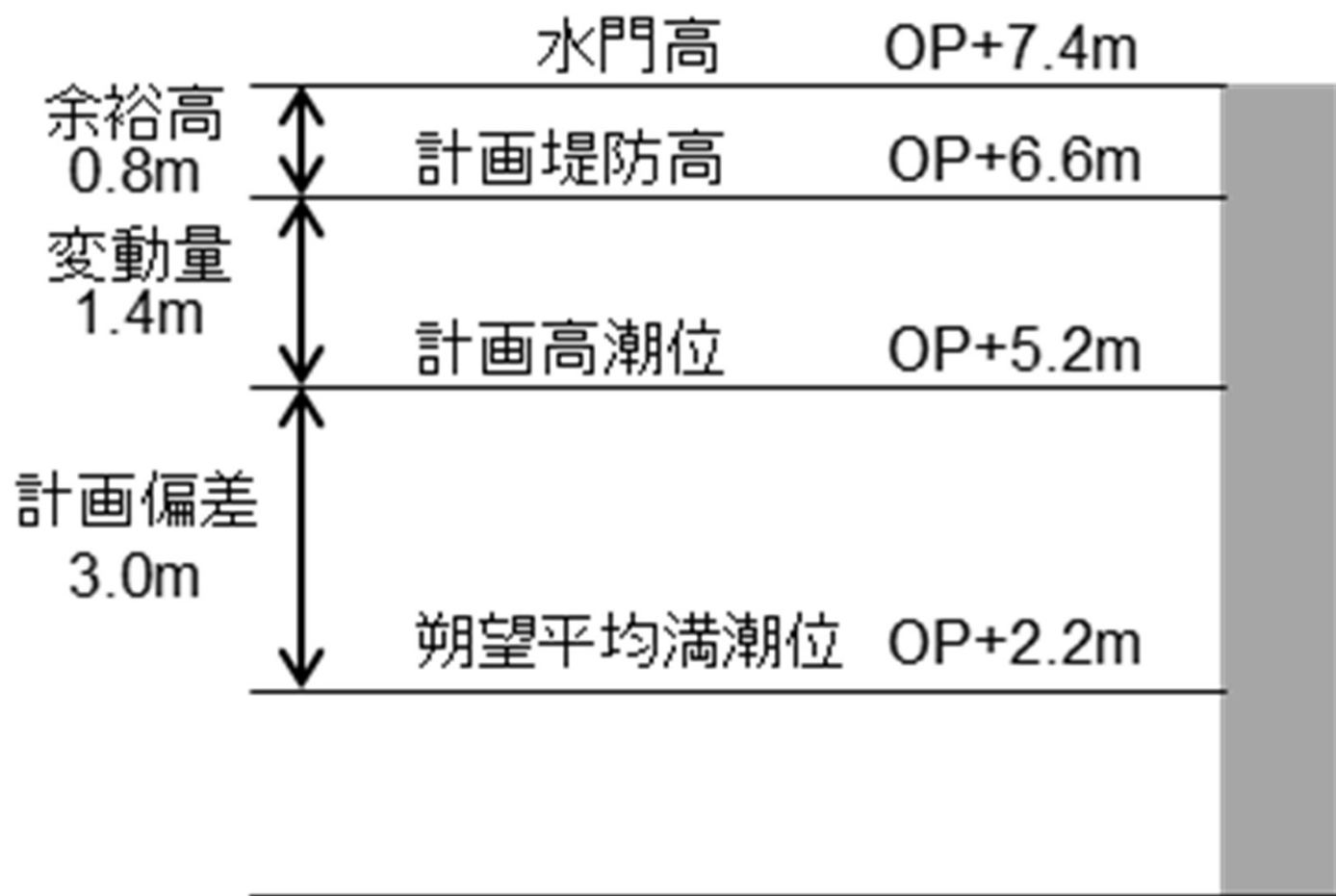
- ・ 気候変動予測には複数のシナリオがあるが、世界平均地上気温は0.3°C~4.8°C上昇することが予測されている。
- ・ 平均気温の上昇に伴い、平均海面の上昇、強度が増す台風に伴う潮位偏差の増大、などが予測されている。

<気候変動の将来予測>

略称	シナリオ (予測) のタイプ	世界平均地上気温	備考
 RCP 2.6	低位安定化シナリオ <small>(世紀末の放射強制力 2.6W/m²)</small> 2°C上昇シナリオ	+0.3~1.7°C	将来の気温上昇を2°C以下に抑えるという目標のもとに開発されたシナリオ
 RCP 4.5	中位安定化シナリオ <small>(世紀末の放射強制力 4.5W/m²)</small>	+1.1~2.6°C	—
 RCP 6.0	高位安定化シナリオ <small>(世紀末の放射強制力 6.0W/m²)</small>	+1.4~3.1°C	—
 RCP 8.5	高位参照シナリオ <small>(世紀末の放射強制力 8.5W/m²)</small> 4°C上昇シナリオ	+2.6~4.8°C	2100年における温室効果ガス排出量の最大排出量に相当するシナリオ

- 現水門の水門高は、計画高潮位に波浪による水位変動を考慮した水門外計画堤防高を設定し、これに余裕高(地盤沈下量等)を考慮して決定している。

■現水門の水門天端高

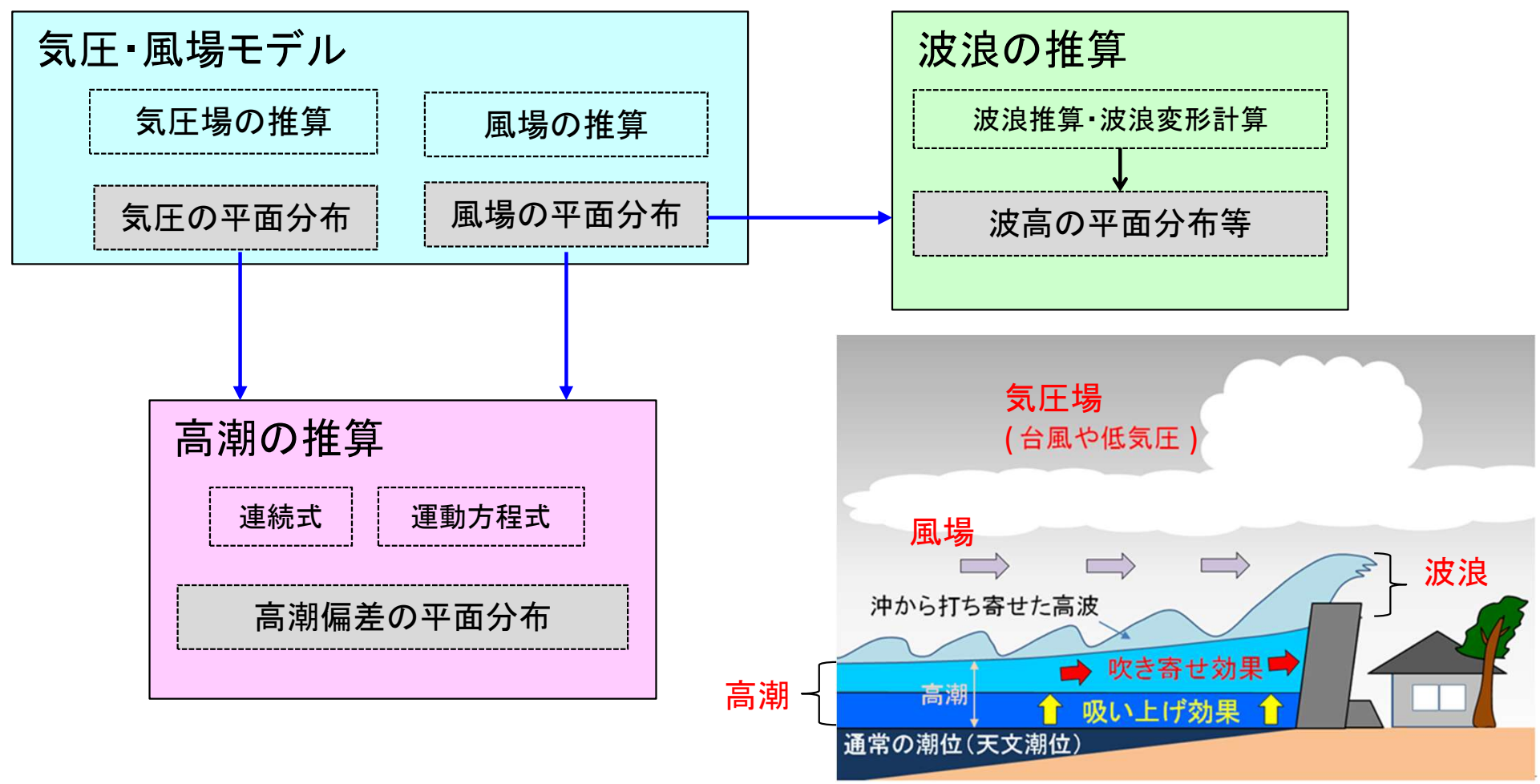


- 新水門の天端高は、現在の高潮計画の安全度が将来気候においても確保されることを目標とし、現在の高潮計画における設定条件の考え方に加え、気候変動による影響を考慮して設定することとした。

■新水門設計外力の設定方針(高潮)

項目		現水門の設計条件	新水門設計条件の設定方針(高潮)
計画目標		既往最大台風(伊勢湾台風級)が最悪となる室戸台風の経路で満潮時に来襲したことを想定	計画台風に気候変動による海面水位の上昇や台風が強くなることを考慮した外力を想定
計画高潮位	計画偏差	計画台風のシミュレーション結果等を基に設定(3.0m)	将来気候における高潮シミュレーションにより設定
	朔望平均満潮位	大阪潮位観測所のS29～S38における台風期(7月～10月)平均の朔望平均満潮位を設定(OP+2.2m)	気候変動に伴う海面水位の上昇を考慮して、台風期(7月～10月)平均の朔望平均満潮位を設定
変動量(打上げ波高・堰上高)		水理模型実験により設定(1.40m)	将来気候における波浪シミュレーションにより設定
余裕高	地盤沈下量	地下水取水量と地盤沈下量の関係性より計画地盤沈下量を設定(0.6m)	施設周辺の近年の地盤沈下量実績値や地震時の広域地盤沈下量を踏まえて設定
	吹き寄せによる水位上昇	水理模型実験により設定(0.2m)	将来気候における高潮シミュレーションにより設定

- 将来気候における台風変化の分析に使用する気候変動予測データは、d2PDF(2°C上昇)、d4PDF(4°C上昇)を使用する。
- 高潮シミュレーションは、「高潮浸水想定区域図作成の手引きVER.1.10(案)H27.7」を参考に、台風による気圧場・風場を推定する気圧・風場モデルとその結果を計算条件とする高潮推算モデルと波浪推算モデルの構成とする。
- 気圧・風場モデルに気候変動に伴う台風の変化を反映して、将来気候における高潮等の解析を行う。

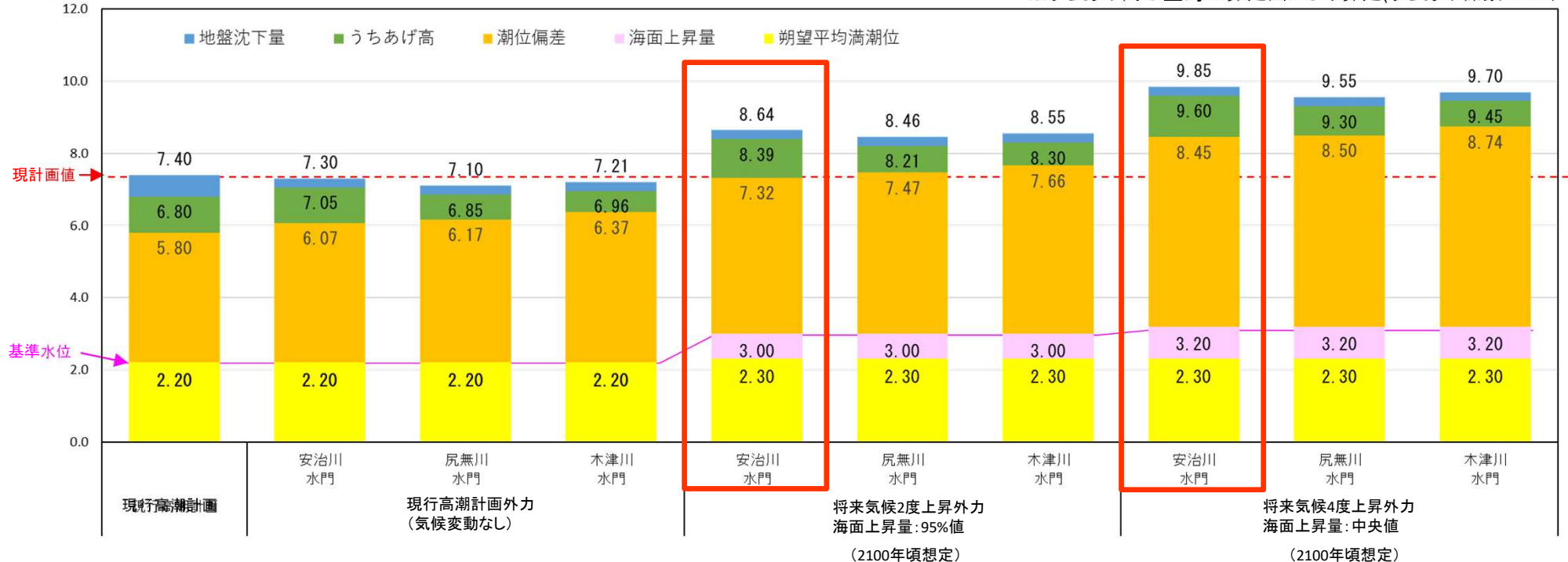


5. 三大水門更新事業について 将来気候における高潮シミュレーション

- 気候変動を考慮しない現在気候の水門天端高は、地盤沈下量の見直しにより現計画より若干低くなるが、既に海面水位が上昇傾向にあることなどを踏まえ、現計画どおりOP+7.40mとする。
- 気候変動を考慮した水門天端高は、安治川水門で最も高く、2°C上昇でOP+8.64m、4°C上昇でOP+9.85mとなり、現計画(OP+7.40m)よりもそれぞれ1.24m、2.45m高くなる。

	朔望平均満潮位(OP+m)			海面上昇量(m)			潮位偏差(m)			うちあげ高(m)※			地盤沈下量(m)			水門天端高(OP+m)			
	安治川水門	尻無川水門	木津川水門	安治川水門	尻無川水門	木津川水門	安治川水門	尻無川水門	木津川水門	安治川水門	尻無川水門	木津川水門	安治川水門	尻無川水門	木津川水門	安治川水門	尻無川水門	木津川水門	
現行計画値	2.20	2.20	2.20	0.00	0.00	0.00	3.60	3.60	3.60	1.00	1.00	1.00	0.60	0.60	0.60	7.40	7.40	7.40	
現行高潮計画外力 (気候変動なし)	解析値	2.20	2.20	2.20	0.00	0.00	0.00	3.87	3.97	4.17	0.98	0.68	0.59	0.25	0.25	0.25	7.30	7.10	7.21
	現行高潮計画からの差分	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.27	0.37	0.57	-0.02	-0.32	-0.41	-0.35	-0.35	-0.35	-0.10	-0.30	-0.19
将来気候2度上昇外力 海面上昇量：95%値 (2100年頃想定)	解析値	2.30	2.30	2.30	0.70	0.70	0.70	4.32	4.47	4.66	1.07	0.74	0.64	0.25	0.25	0.25	8.64	8.46	8.55
	現行高潮計画からの差分	0.10	0.10	0.10	0.70	0.70	0.70	0.72	0.87	1.06	0.07	-0.26	-0.36	-0.35	-0.35	-0.35	1.24	1.06	1.15
将来気候4度上昇外力 海面上昇量：中央値 (2100年頃想定)	解析値	2.30	2.30	2.30	0.90	0.90	0.90	5.25	5.30	5.54	1.15	0.80	0.71	0.25	0.25	0.25	9.85	9.55	9.70
	現行高潮計画からの差分	0.10	0.10	0.10	0.90	0.90	0.90	1.65	1.70	1.94	0.15	-0.20	-0.29	-0.35	-0.35	-0.35	2.45	2.15	2.30

(OP+m) ※うちあげ高は豊島の算定図により算定(うちあげ係数R=1.0)



各水門の設計外力については、建設地点により差異が認められるが、その差を的確に把握することが難しく、気候変動による外力の増大にも不確実性があることから、三水門で最大となる外力を採用する。

■水門天端高

現計画及び将来気候(2℃上昇、4度上昇)のいずれにおいても安治川水門の計算値が最も高い。

	現計画 (現水門)	現計画計算値			2度上昇 (95%値)			4度上昇 (中央値)		
		安治川	尻無川	木津川	安治川	尻無川	木津川	安治川	尻無川	木津川
基準水位(OP+m)	2.2	2.2			2.3			2.3		
海面上昇(m)	0	0			0.7			0.9		
潮位偏差(m)	3.60	3.87	3.97	4.17	4.32	4.47	4.66	5.25	5.30	5.54
高潮位(OP+m)	5.80	6.07	6.17	6.37	7.32	7.47	7.66	8.45	8.50	8.74
うちあげ高(m)	1.00	0.98	0.68	0.59	1.07	0.74	0.64	1.15	0.80	0.71
余裕高(m)	0.60	0.25								
水門高(OP+m)	7.40	7.30	7.10	7.21	8.64	8.46	8.55	9.85	9.55	9.70
(L1) 津波水位(OP+m)	—	4.46	4.93	5.64	5.26	5.73	6.44	5.46	5.93	6.64
(L2相当) 津波水位(OP+m)	—	5.76	5.85	6.65	6.56	6.65	7.45	6.76	6.85	7.65

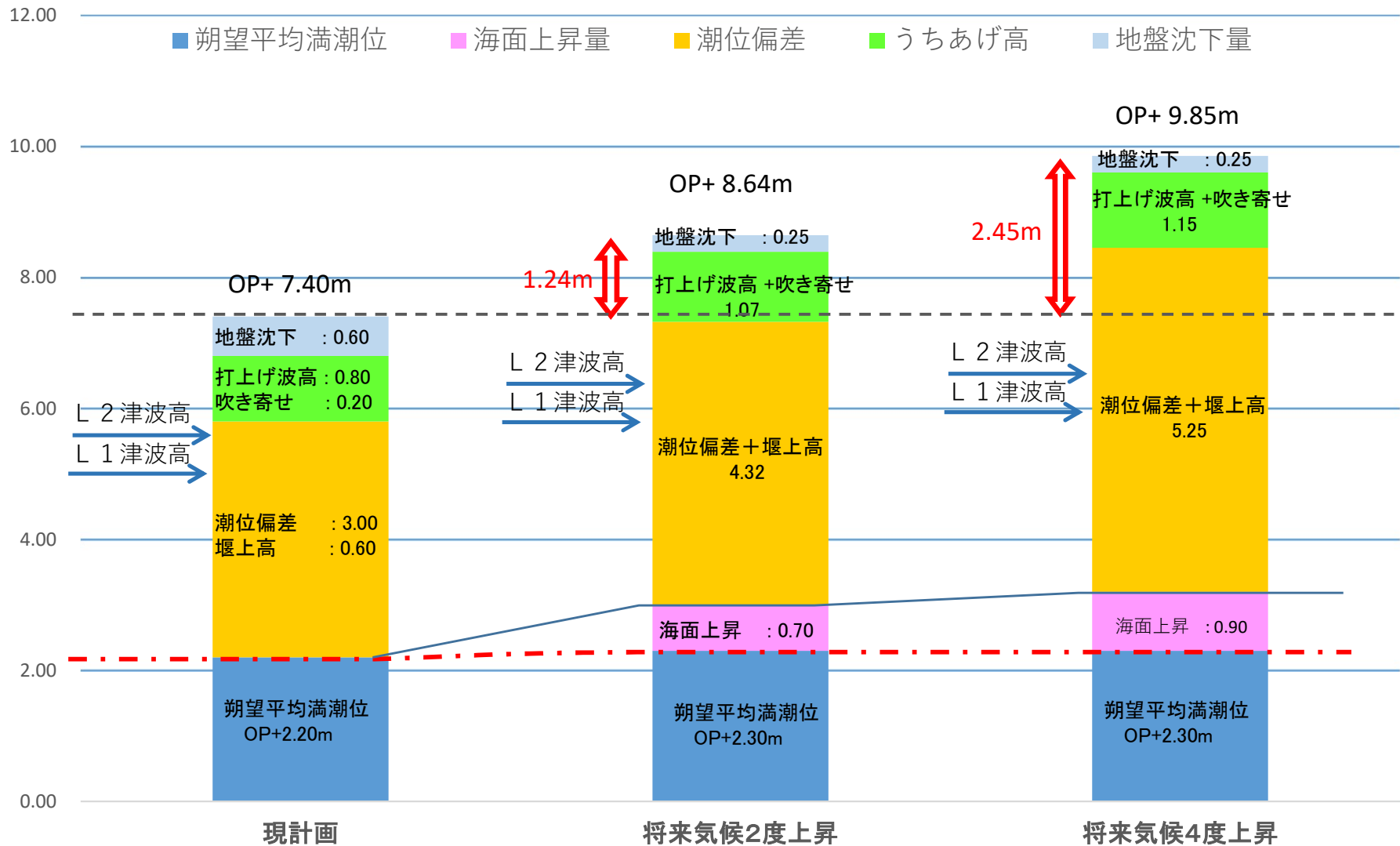
■水圧・波圧

現計画及び将来気候(2℃上昇、4℃上昇)のいずれにおいても高潮外力の木津川水門の計算値が最も高い。

		高潮外力			現計画に対する 増加割合	津波波力	
		静水圧	波圧	合計		施設画上 (L1)	最大クラス (L2)相当
現計画		10,612	1,200	11,812	1	-	-
現計画 計算値	安治川	11,466	1,222	12,688	1.07	6,433	7,201
	尻無川	11,787	1,231	13,018	1.10	7,550	7,378
	木津川	12,439	1,248	13,687	1.16	9,396	8,951
2度上昇	安治川	15,703	1,441	17,144	1.45	8,224	8,790
	尻無川	16,243	947	17,190	1.46	9,460	8,987
	木津川	16,938	814	17,751	1.50	11,467	10,739
4度上昇	安治川	19,163	1,665	20,828	1.76	8,741	9,243
	尻無川	19,356	1,093	20,450	1.73	10,009	9,449
	木津川	20,295	970	21,265	1.80	12,064	11,345

(OP+ m)

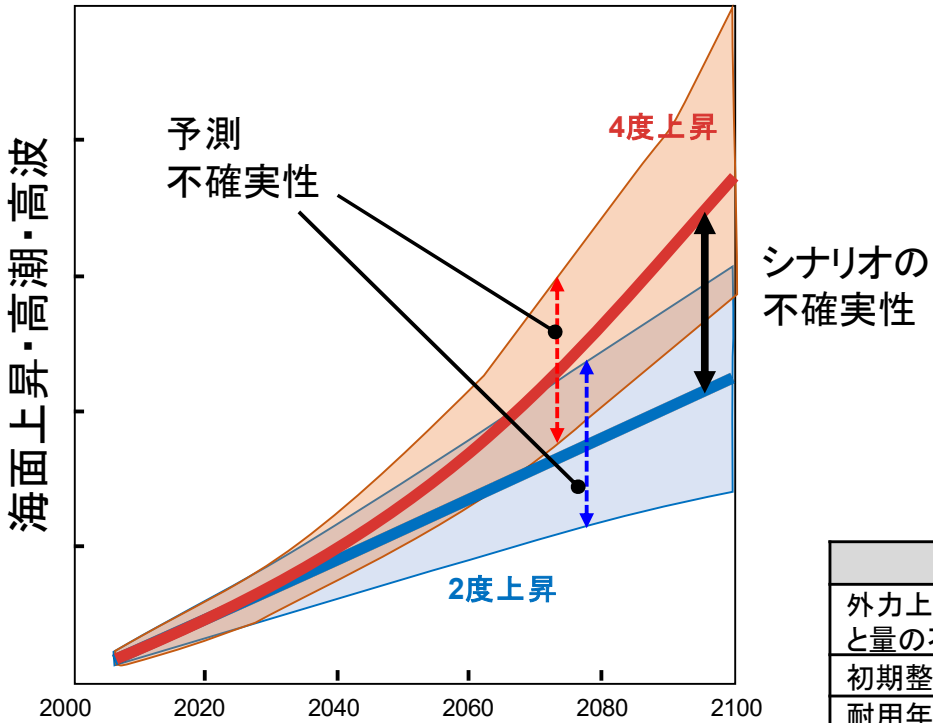
水門天端高さ



- 気候変動予測結果を基に設定した外力には、さまざまな不確実性が潜在するため、これを踏まえた設計を行う必要がある。
- 気候変動に伴い経年的に変化する外力に対して施設を設計する場合、4°C上昇を想定した設計は、手戻りのリスクが小さく、減災効果は優れるが、初期費用及び外力の不確実性は高くなる。
- 一方、2°C上昇を想定した設計は、初期費用は安くなるが、供用期間中に想定した外力を超えた場合に改修が必要となる。かつ、超過外力に対する減災効果は劣る。

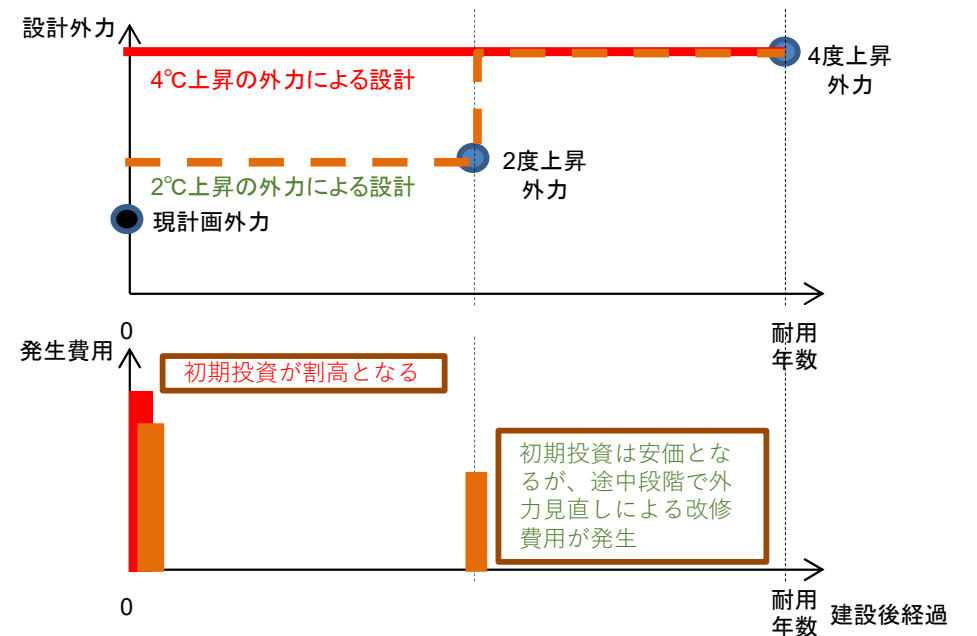
■気候変動予測結果に含まれる不確実性

気候変動の予測結果には、気候予測の不確実性、シナリオによる不確実性、外力の上昇時期の不確実性などが含まれる。
 そのため、気温上昇に起因する、海面上昇、台風規模の変化による高潮や波浪の増加量にもそれぞれ不確実性が潜在する。
 これらの不確実性を踏まえ、水門設計を行う必要がある。



■設定する外力と費用の発生

初期費用、途中段階の外力見直しによる改修費用を踏まえて、手戻りのない設計の考え方について検討する必要がある。



	4°C上昇の外力	2°C上昇の外力
外力上昇の時期と量の不確実性	× 変動幅が大きい	○ 変動幅が小さい
初期整備コスト	× 過剰投資となるリスク	○ 必要最小限のコスト
耐用年数内の改修リスク	○ コスト増リスク小	× 改修時にはコスト増
減災機能	○ 超過洪水に対して効果大	× 超過洪水に対して効果小

- 気候変動を踏まえた治水計画のあり方提言に基づき、施設設計の外力は、2℃上昇を想定し、部材毎に耐用期間内に必要とされる安全性を確保するものとし、耐用期間終了時点で想定される外力を用いて設計を行う。
- ただし、2℃上昇外力の予測値には不確実性があることや更なる温度上昇にも備える観点から、4℃上昇の外力まで増加した場合でも改造できるような設計上の工夫について検討する。

■気候変動を踏まえた治水計画のあり方 提言 「施設設計上の対応」の考え方

(基本的な考え方)

- 施設の耐用年数経過時点において、必要とされる安全性が確保されるように、気候変動の影響を考慮
- 耐用年数の長い施設については、予測の不確実性も踏まえ、容易かつ安価に改造できるような設計上の工夫を実施。

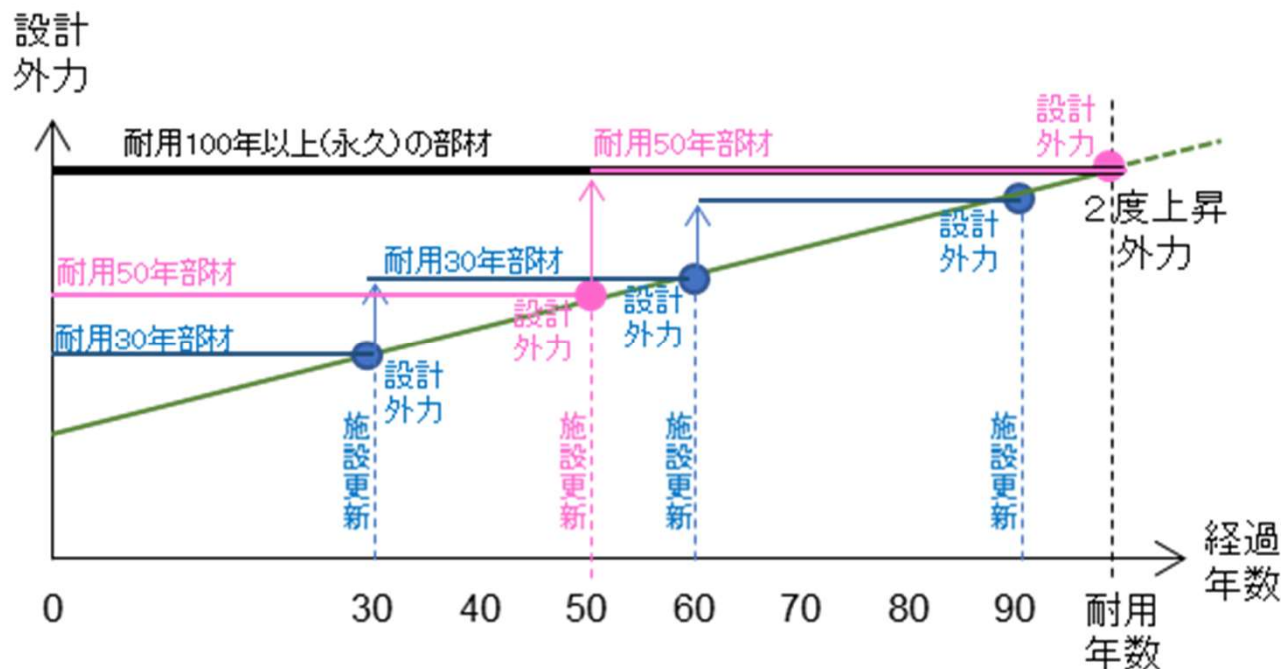
(採用する外力の考え方)

- RCP2.6(平均値)の活用
※施設の耐用年数経過時点(更新時点)における外力を設計
- RCP8.5シナリオの活用
更なる温度上昇に備えて、構造変更を容易にする工夫等を検討する場合の外力に活用

(具体の対応策)

- 2℃上昇による外力増加を設計に反映
- 4℃上昇でも改造等が容易になる工夫
- 順次対応可能な構造

■部材毎の耐用期間を考慮した外力条件の設定イメージ

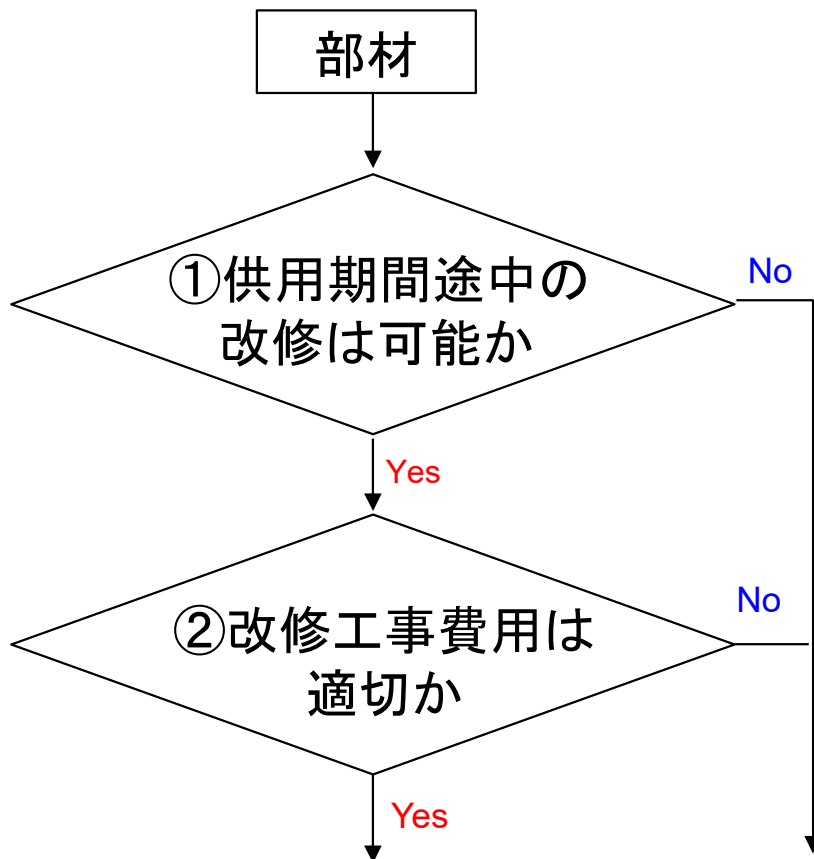


■更新年数の例

- 耐用100年以上(永久): 本体(門柱)、基礎など
- 耐用50年部材: ゲート扉体など
- 耐用30年部材: 制御機器など

※「水門・陸閘等維持管理マニュアル」H30.5を参考に記載

- 気候変動予測を基に設定した外力には、様々な不確実性が潜在するため、手戻りなく設計すること、また過剰な投資にならないように設計することの両面を考えることが重要である。
- そのため、各部材の設計に際しては、あらかじめ対策を講じておく「先行型対策」と将来における気候変化を確認後に対策を講じる「順応型対策」のどちらか適切な対策方法を選択する。



- ①の主な評価の視点
- 要求性能の確保
 - ・ 改修中においても、高潮・津波への対応が可能であるか
 - ・ 航行船舶への影響はないか
 - 実現性
 - ・ 技術上の観点から実現可能か
 - ・ 地元や関係者との調整の見通しはどうか

- ②の主な評価の視点
- ・ 初期費用は妥当か
 - ・ 改築・供用期間の総費用は妥当であるか

【順応型対策】
 設計時に気候変動は考慮せず、気候変動による外力増を確認後に逐次対策を講ずる。

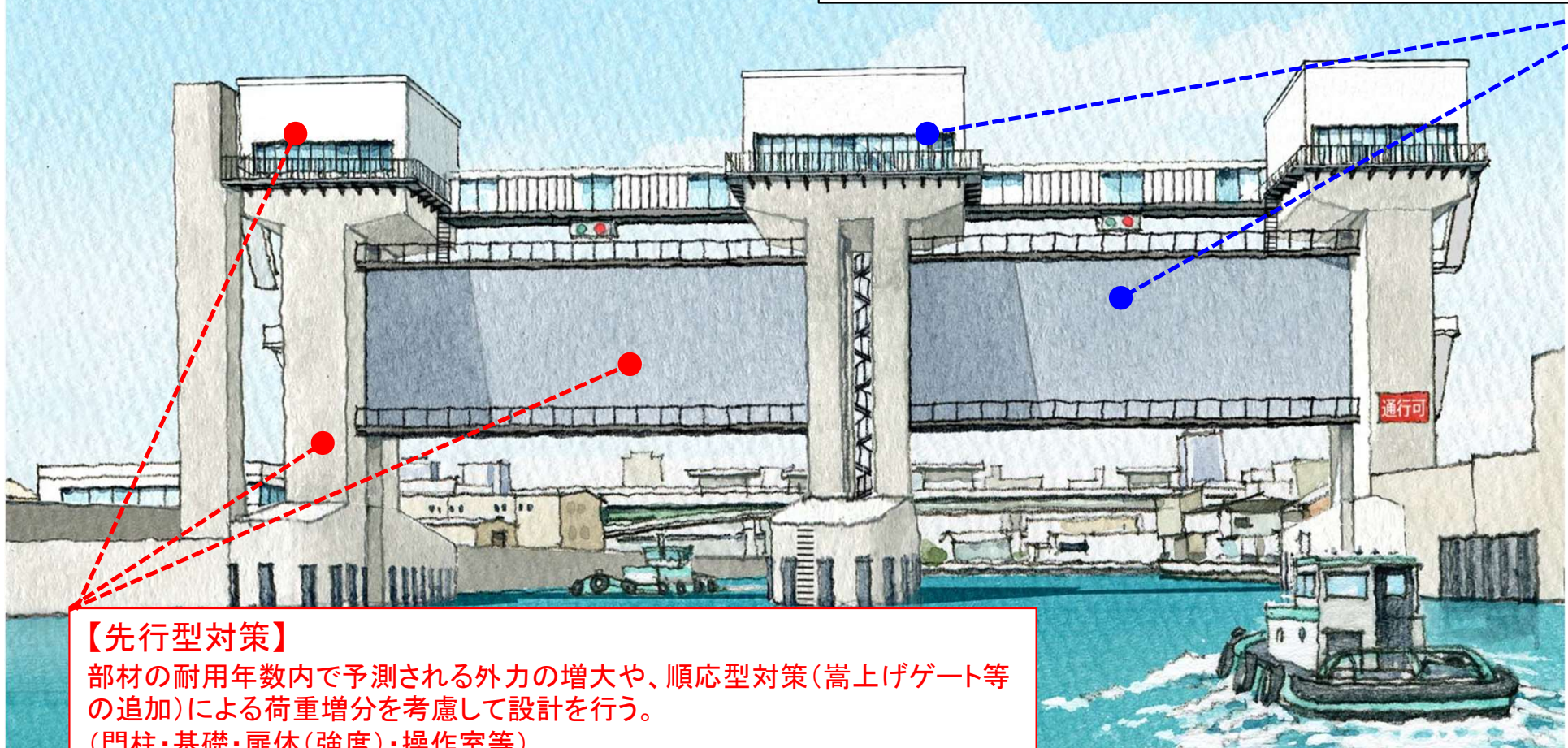
【先行型対策】
 部材の耐用年数内で予測される外力の増大分を考慮して設計を行う。

- 新水門は、津波対策も兼ねるため津波に対する安全性や停電時などの緊急時にも速やかにゲートを閉鎖する機能が求められることから、引上げ式構造ローラーゲートを採用する。
- 気候変動予測を基に設定した外力には、不確実性が潜在するため、各部材の設計に際しては、あらかじめ対策を講じておく「**先行型対策**」と将来における気候変化を確認後に対策を講じる「**順応型対策**」のどちらか適切な対策方法を選択する。

■新木津川水門の完成イメージ（下流側）

【順応型対策】

気候変動による外力増により扉体（高さ）の不足を確認後、嵩上げゲート、嵩上げゲート用の巻き上げ機等を増設する。
（扉体（高さ）・巻き上げ機等）

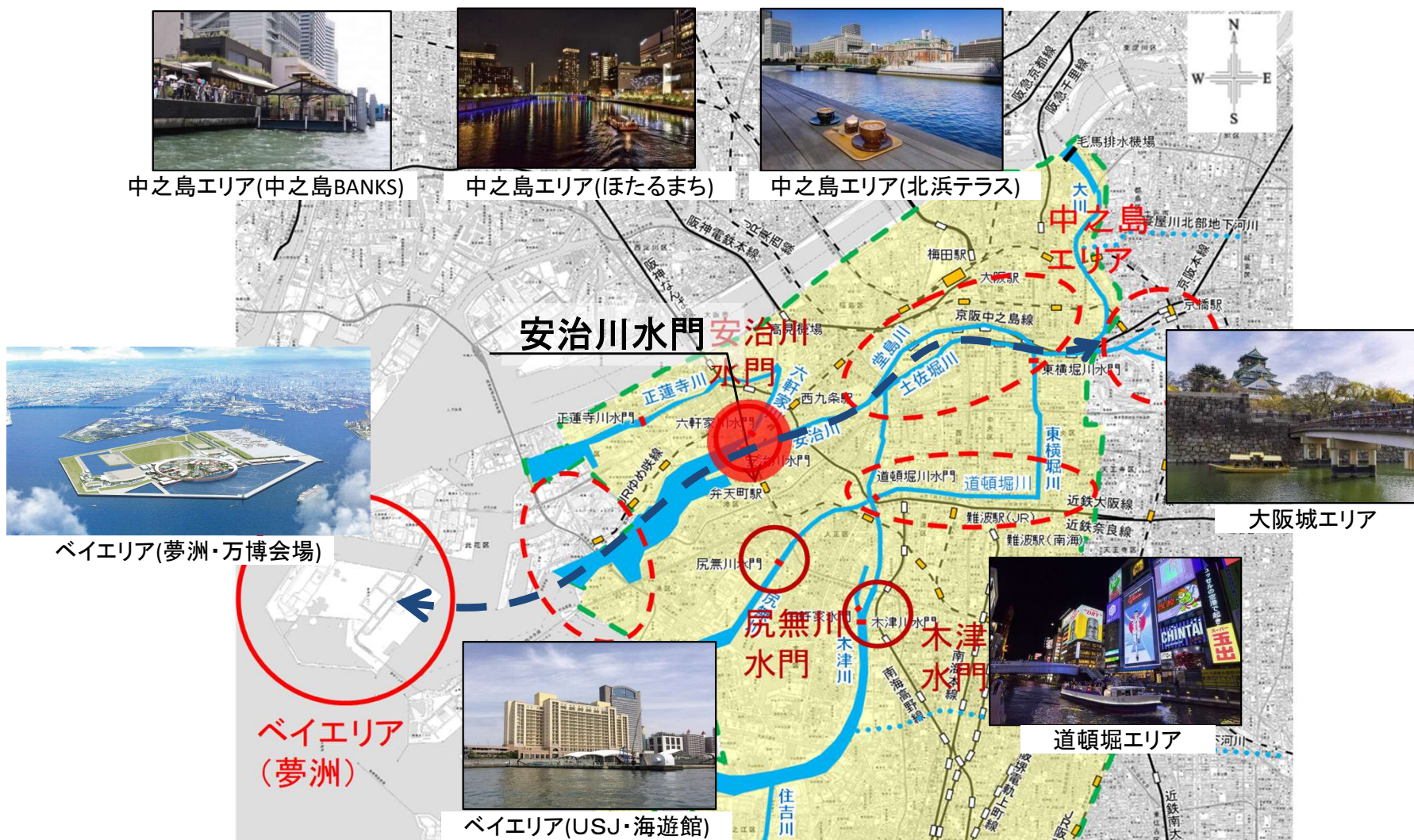


【先行型対策】

部材の耐用年数内で予測される外力の増大や、順応型対策（嵩上げゲート等の追加）による荷重増分を考慮して設計を行う。
（門柱・基礎・扉体（強度）・操作室等）

6. 新水門の景観検討について 新安治川水門アイデアコンペ

- 現水門は、アーチ形という珍しい形式であり、都市景観資源に登録されるなど地域のシンボルとして親しまれている。
 - 大阪のベイエリアは2025年日本国際博覧会開催やIRを含む国際観光拠点形成に向けた整備が進められている。
 - 舟運については、夢洲を含むベイエリアと都心部の中之島エリアを結ぶ東西軸として新航路の設定や船便の増強による利便性向上が検討されるなど重要度が増している。
- ⇒ 沿川の開発も相まって、さらなる舟運の活性化が予想されるなど、景観の魅力向上の取り組みが求められる。



【検討の進め方】

- 新水門に期待する付加価値や水門周辺に期待する姿や景観などについて、アイデアコンペの開催を検討するなど、広くアイデアを募集する。
 - アイデア募集の結果も参考に、景観設計上のコンセプト及び配慮すべき事項を決定する。
- ⇒ 設計競技方式(アイデア公募型)にてコンペを開催 【募集期間：2021年7月16日～9月7日】

ONLINE アイデアコンペ!

新 | 安治川水門

[テーマ (対象エリア)]
新安治川水門と
周辺地域および河川軸

応募期間 **2021/07/16 FRI → 09/07 TUE**
参加登録締切 ▶ **2021/08/31 TUE**
質問受付締切 ▶ **2021/07/30 FRI**

【応募資格】個人、グループ、企業など、どなたでも応募できます
【スケジュール】1次審査通過者発表：2021年9月下旬に応募代表者へメール通知
2次審査：2021年10月18日(月) 18:00~20:30
▶ 公開プレゼンテーション(1次審査通過者を対象に実施)
結果発表：2021年11月中旬を予定(公式サイトにて発表)

【賞】最優秀賞1点：賞状および賞金15万円 優秀賞1点：賞状および賞金10万円
奨励賞3点：賞状および賞金3万円 審査員特別賞1点：賞状

主催：「新安治川水門アイデアコンペ・絵画コンクール」実行委員会
(構成員)大阪府西大阪治水事務所、大阪府河川(淀川)審判官、「私の水32」推進協議会、公益財団法人大阪府都市整備推進センター
協賛：一般財団法人 都市技術センター
後援：土木学会 建設マネジメント委員会 公共デザインコンペティション研究小委員会

応募作品の一部



新安治川水門アイデアコンペ

<https://www.ajigawasuimon-compe.info/>